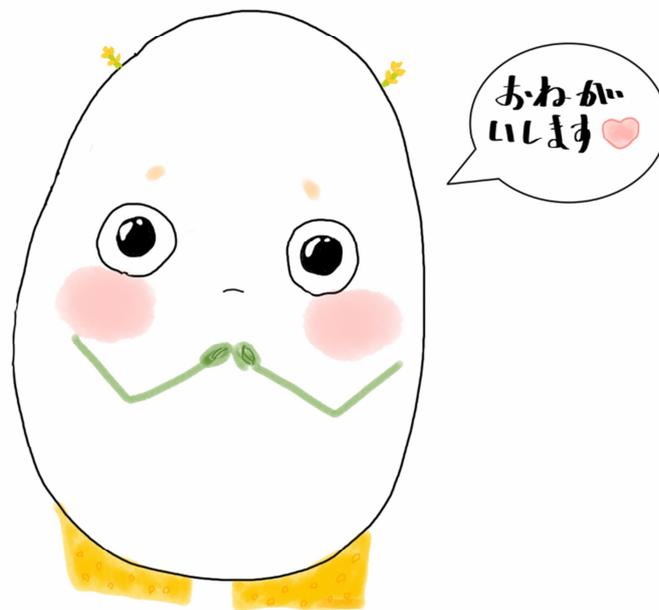


令和7年度 第4回 (第6期第3回) 安平町未来創生委員会

議 案

安平町への移住をおねがいする顔



令和5年度卒業の早来学園9年生が授業で作成した町非公式キャラクター「あびたまなっちゃん」

子ども達にも安平町に親しみを持ってほしいと願いから創られた。

日 時 令和8年2月20日 (木) 13時30分～

場 所 安平町役場 総合庁舎 (大会議室) 及びオンライン

【会議レジュメ】

1 開 会

2 安平町未来創生委員会委員 自己紹介 ※新任の方のみ P 1

3 議 事

(1) 前回の振り返りと本日の議題の確認について P 2

(2) 第3次安平町総合計画策定について P 6

- 次期総合計画策定に向けた取り組み
- まちのみなさんへの広報活動

(3) 安平町デジタル田園都市国家構想総合戦略について P77

- 国版「地方創生に関する総合計画」の策定を踏まえた今後の方向性
- 地域未来交付金（地方創生推進型）R8年度実施予定事業

(4) 令和7年度における追加的物価高騰対策事業について P82

- 物価高騰対策重点支援地方創生臨時交付金を活用したR7年度国補正事業

4 その他

5 閉 会

【議事（１）前回の振り返りと本日の議題の確認について】

安平町未来創生委員会

○未来創生委員会委員 14名以内(非常勤特別職)

○委員会は、必要があると認めるときは、委員会に委員以外の有識者に出席いただき、その説明及び意見を求めることとしています。

■任期2年（令和7年7月31日～令和9年7月30日）

○報酬と費用弁償

「安平町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例」に基づき、

委員長：3,500円/回

他委員：3,000円/回

また、右の表に基づき、お住いの地域によって規定される距離に応じたお車代を出席者に対してお支払いします。

@37円/km

※外部有識者の方は、これと別枠

NO	地区名	早来総合庁舎までの距離	追分総合支所までの距離
3	安平(安平駅)	7km	7km
4	遠浅(遠浅駅)	6km	18km
5	早来瑞穂(みずほ館)	9km	9km
6	早来緑丘(緑丘会館)	8km	10km
7	早来守田(守田小跡地)	4km	13km
8	東早来(すずらん橋)	3km	11km
9	早来北進(北進会館)	2km	12km
10	早来新栄(第1新栄会館)	3km	16km
11	早来新栄(第2新栄会館)	5km	18km
12	早来源武(源武会館)	6km	19km
13	早来富岡(種苗管理センター)	6km	18km
14	追分本町・追分花園・追分若草・追分柏が丘・追分緑が丘・追分青葉・追分白樺・追分中央	13km	0km
15	追分旭(旭神社)	22km	9km
16	追分向陽(旭陽会館)	20km	7km
17	追分美園(慶町橋)	16km	3km
18	追分春日(明春辺神社)	10km	5km
19	追分弥生(明春辺会館)	11km	4km
20	追分豊栄(豊栄会館)	11km	3km

○委員及び外部有識者のみなさまの役割

安平町未来創生委員会条例（抄）

（所掌事務）

第2条 委員会は、町長の諮問に応じて、次に掲げる事項を調査審議し、答申する。

（１）安平町まちづくり基本条例（平成25年安平町条例第32号）第23条に規定する総合計画（以下「総合計画」という。）の策定に関する事項

（２）その他町長が特に必要と認める事項

2 前項に掲げるもののほか、委員会は、次に掲げる事項に関し、町長に意見を述べるができる。

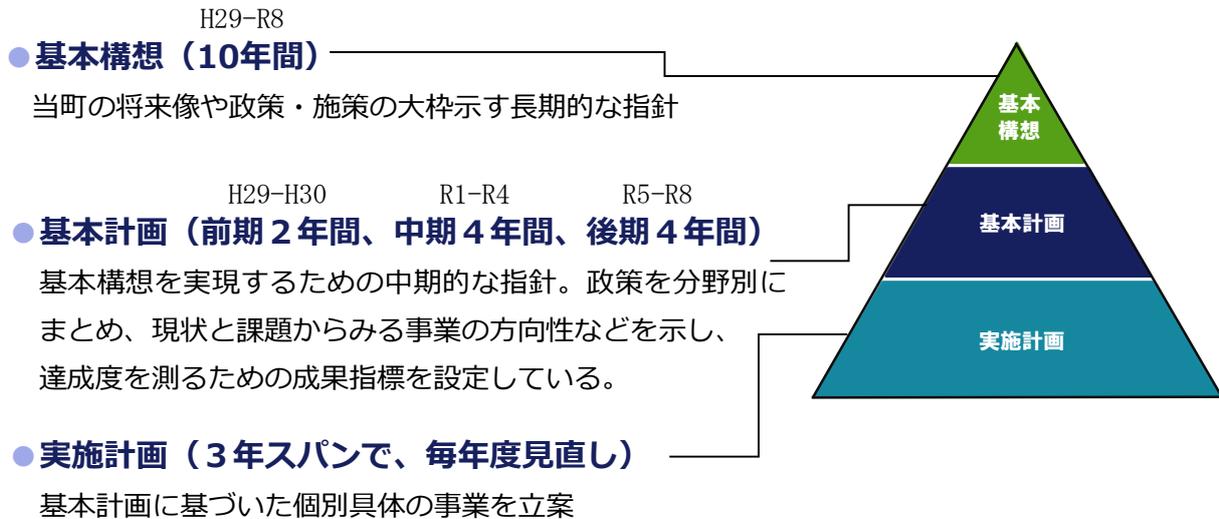
（１）まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号）第10条に規定するまち・ひと・しごと創生に関する施策についての基本的な計画の策定、見直し及び進行管理に関する事項

（２）総合計画の見直し及び進行管理に関すること。

（３）その他町長が特に必要と認める事項

【議事（1）前回の振り返りと本日の議題の確認について】

【第2次安平町総合計画の構成と期間】



○本編及びダイジェスト版のホームページへの掲載



<https://www.town.abira.lg.jp/gyosei/sogo-keikaku>

※紙配布の方へは、「基本構想」ダイジェスト版を同封しています。

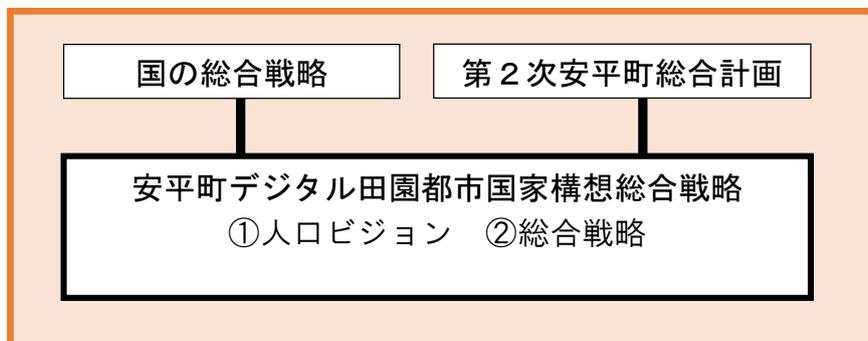
【安平町デジタル田園都市国家構想総合戦略の位置づけと期間】

①総合戦略の位置づけと策定背景

まち・ひと・しごと創生法第10条で策定が義務付けられるものであり、当町では第2次安平町総合計画の下位計画として位置付けています。

コロナ禍での社会情勢の変化を教訓に、デジタルの力を活用した地域課題の解決を加速化・深化することが国全体の方針として示されたことを受けています。

[安平町総合計画との関係]



②計画期間

令和5年度（2023年度）から令和9年度（2027年度）までの5か年としています。

【議事（1）前回の振り返りと本日の議題の確認について】

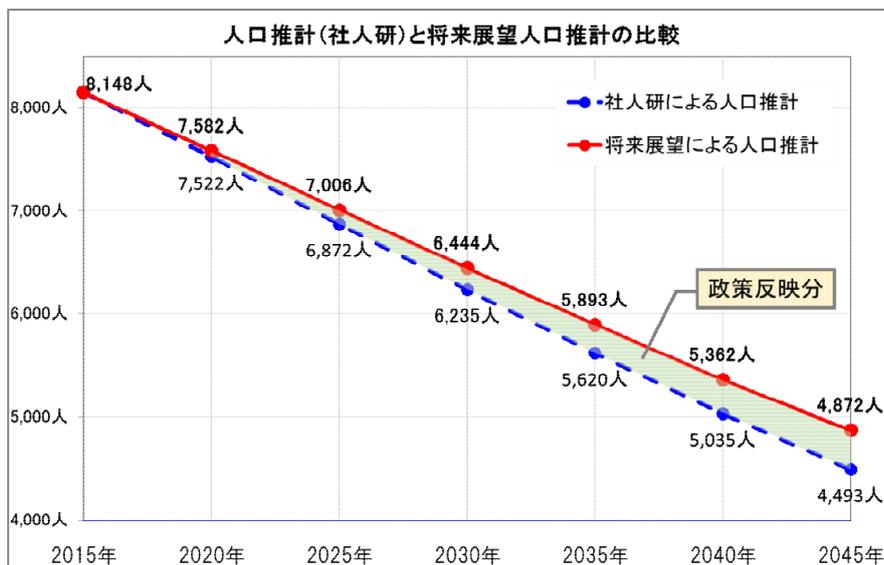
○本編及びダイジェスト版のホームページへの掲載

<https://www.town.abira.lg.jp/gyosei/kakushu-keikaku/1362>



【総合計画と総合戦略の関係性】

【安平町が目指すゴール】～総合計画と総合戦略で示す目的



社人研が推計した4,493人よりも多い4,872人を目指す、つまり、人口減少を抑制することが目的／ゴールと設定されている。

【ゴールを目指す理由】～総合計画と総合戦略の根底にあるもの

人口減少による次の懸念を示している。

- ・ 公共サービスの質と量の低下
- ・ 地域コミュニティ機能の低下



まちの持続可能性に課題

【これを解決するための定性的目標】～総合計画と総合戦略の目的達成へ

「子どもが元気だと、高齢者も元気！」

「まちの未来には、若者の力が必要！」 (アンケートで寄せられたご高齢の方の声)



あらゆる世代の人々が、できる範囲でまちづくりに関わる (基本構想)



目標：まちの皆さんの主体性を育む支援をすること

【議事（１）前回の振り返りと本日の議題の確認について】

【本日の議題】

（２）第３次安平町総合計画策定について

【安平町未来創生委員会条例第２条第１項第１号関係】

令和７年８月２７日開催の未来創生員会にて、町長より本委員会へ策定が諮問されましたことを踏まえ、その後の進捗状況等をご報告します。

- ▶ 次期総合計画策定に向けた取り組み（町民参画状況など）
- ▶ まちのみなさんへの広報活動

（３）安平町デジタル田園都市国家構想総合戦略について

【安平町未来創生委員会条例第２条第２項第１号関係】

令和７年６月１３日「地方創生２．０基本構想」の閣議決定し、令和７年１２月２３日には国の新たな総合戦略が閣議決定されたことを踏まえた当町の総合戦略の今後の方向性などについてご報告します。

また、町の総合戦略を踏まえた令和８年度における国の交付金を活用して実施しようとする事業についてご報告します。

（４）令和７年度における追加的物価高騰対策事業について

【安平町未来創生委員会条例第２条第２項第３号関係】

令和７年１１月２１日「強い経済」を実現する総合経済対策 ～日本と日本人の底力で不安を希望に変える～」が閣議決定し、物価高騰対策支援が追加的に実施されることとなったことを踏まえ、当町の対応状況などについてご報告します。

○安平町未来創生委員会条例（抄）

（所掌事務）

第２条 委員会は、町長の諮問に応じて、次に掲げる事項を調査審議し、答申する。

（１）安平町まちづくり基本条例（平成２５年安平町条例第３２号）第２３条に規定する総合計画（以下「総合計画」という。）の策定に関する事項

（２）その他町長が特に必要と認める事項

２ 前項に掲げるもののほか、委員会は、次に掲げる事項に関し、町長に意見を述べることができる。

（１）まち・ひと・しごと創生法（平成２６年法律第１３６号）第１０条に規定するまち・ひと・しごと創生に関する施策についての基本的な計画の策定、見直し及び進行管理に関する事項

（２）総合計画の見直し及び進行管理に関すること。

（３）その他町長が特に必要と認める事項

【議事（２）第３次安平町総合計画策定について】

本年度の総合計画策定に向けた取り組み ～プロジェクト・チームの設置

令和7(2025)年度 総合計画策定PT活動実績			
	年月日 ▼	分類 ▼	主な内容等 ▼
1	4月7日	設置	PTメンバー公募開始
2	4月18日	設置	PTメンバー公募終了 ～4名応募あり
3	4月23日	設置	PT組成要望書提出
4	4月28日	設置	PT設置
5	5月7日	会議	第1回目 ～キックオフ（辞令交付・全体説明等）
6	5月15日	会議	第2回目 ～理事者・本部長面談（方向性の確認）
7	5月27日	会議	第3回目 ～前回町長等面談ふりかえり・策定方針素案検討
8	5月29日	意見聴取	早来学園9年生「まちづくり学習」
9	6月10日	会議	第4回目 ～素案検討・アンケート項目検討など
10	6月13日	意見聴取	追分中3年生「まちづくり学習」
11	7月2日	会議	第5回目 ～アンケート回収率UPに向けて・100人会議内容検討など
12	7月7日	意見聴取	アンケート調査 広報あびら折り込み 8/6㍊
13	7月14日	会議	第6回目 ～100人会議内容検討・厚真町への視察検討など
14	7月28日	視察	厚真町（ロジックモデルづくり）
15	7月31日	会議	第7回目 ～100人会議内容検討・子ども環境条例検討など
16	8月5日	広報	第2次総合計画について
17	8月7日	会議	まちづくり教育フォーラム打合せ
18	8月8日	会議	総合計画に関する職員研修実施に向けた打合せ
19	8月15日	会議	まちづくり教育フォーラム打合せ
20	8月19日	意見聴取	まちづくり教育フォーラム100人会議
21	8月26日	会議	第8回目 ～進捗共有・今後の方向性確認など
22	8月28日	会議	総合計画周知動画作成に関する打合せ
23	9月2日	会議	総合計画周知動画作成に関する打合せ
24	9月5日	広報	第3次総合計画の策定方針について
25	9月24日	会議	総合計画周知動画作成に関する打合せ
26	9月30日	会議	R7第1回教育まちづくりPT
27	10月6日	広報	未来創生委員会への諮問について
28	10月22日	会議	第9回目 ～進捗共有・今後の方向性確認など
29	11月11日	意見聴取	早来学園9年生「まちづくり学習」
30	11月17日	会議	第10回目 ～進捗共有・今後の方向性確認など
31	11月21日	研修	役場組合青年女性部学習会
32	12月5日	広報	総合計画とは？
33	12月8日	研修	役場一般職向け総合計画等研修
34	1月15日	会議	第11回目 ～進捗共有・今後の方向性確認など

【議事（２）第３次安平町総合計画策定について】

本年度の総合計画策定に向けた取り組み ～町民参画の状況

令和7（2025）年度 第3次総合計画策定に係る町民参画活動実績

令和7(2025)年度 総合計画策定に係る町民参画活動実績					
	年月日	分類	種類	主な内容等	参画人数
1	5月20日	①	アンケート	5/20開始、6/30終了で愛着度調査	267
2	5月29日	①	アンケート	早来学園9年生授業にて、愛着度を調査	30
3	6月13日	①	アンケート	追分中3年生授業にて、愛着度を調査	15
4	6月27日	③	委員会	未来創生委員会にて今後の方向性を審議	14
5	6月30日	②	その他	議員全員協議会にて今後の方向性を意見交換	9
6	7月6日	①	アンケート	うまか祭りにおける愛着度調査	1,709
7	7月7日	①	アンケート	7/7開始、8/6終了で満足度重要度調査	389
8	8月19日	②	ワークショップ	教育まちづくりフォーラム100人会議にてウェルビーイング（しあわせ）に関する意見交換	88
9	8月27日	③	委員会	未来創生委員会にて町長より策定に関する諮問	12
10	9月30日	③	ワークショップ	教育まちづくりPT	12
11	10月5日	①	アンケート	道の駅（チーズショー）における愛着度調査	1,188
12	10月9日	その他	ヒアリング	追分地区学校づくりに係る地域の方、先生に対するマチの魅力や課題に関する調査	57
13	10月9日	③	アンケート	協力隊委員生業形成マネジメント業務における町に対する意識調査	22
14	10月10日	①	アンケート	お試し暮らし住宅利用者アンケート（現時点のものを受領）	9
15	11月10日	①	アンケート	庁内事例紹介 ～ウェルビーイング調査（社教G）	110
16	12月10日	③	委員会	未来創生委員会にて総合計画の進捗等確認	18
17	1月16日	②	その他	商工行政懇談会	18
18	1月28日	③	委員会	総合教育会議	11
19	2月20日	③	委員会	未来創生委員会	13

合計延べ人数 3,991名

早来学園9年生（中3相当）まちづくり授業 ～愛着度等調査

現在安平町が抱える最大の問題は「人口減少」であり、それを少しでも食い止めるために行政はどういったことをしているのか、それを踏まえた皆さんはどう考えるのか、といった授業を実施した。



【ご意見概要】

●プラス面

- ・大きなチェーンのドラックやコンビニがある
- ・馬やチーズ、菜の花がとても有名
- ・自然が豊か
- ・教育環境が整っている
- ・習い事ができる
- ・事故が少ない
- ・治安がいい
- ・苫小牧や千歳に近い
- ・スポーツができる環境がある
- ・子どもにやさしい
- ・比較的雪が少ない
- ・病院代が安くなる
- ・空港や港に近い

●マイナス面

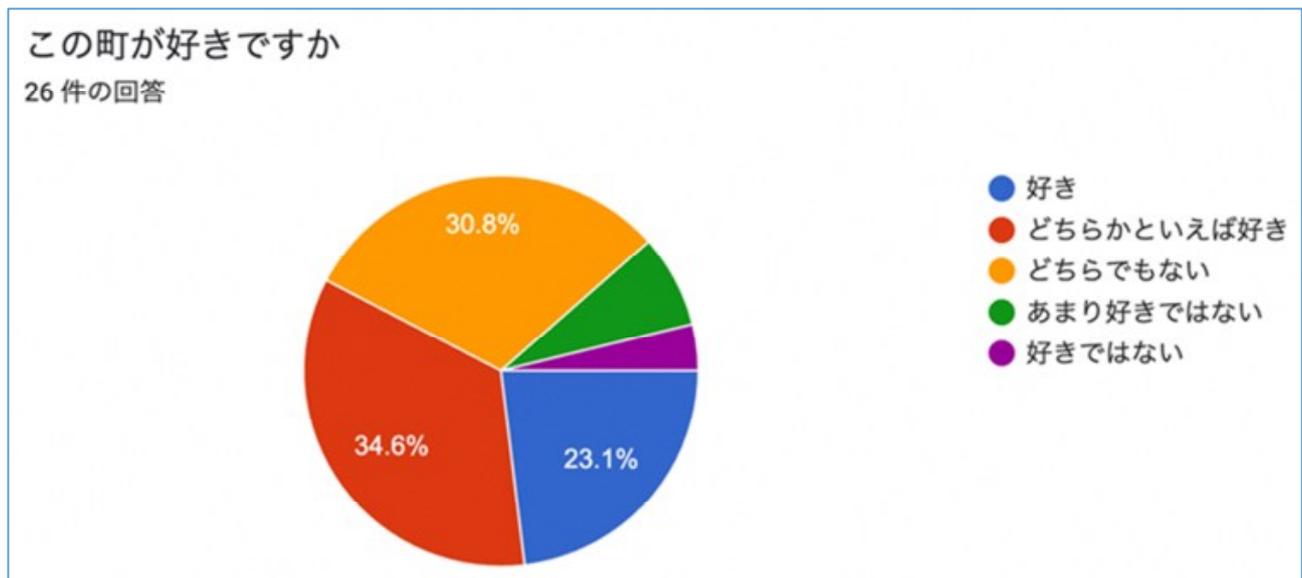
- ・電車の本数が少ない
- ・遊ぶところが少ない
- ・お店が少ない
- ・街灯が少ない
- ・冬道が危険
- ・公共施設が少ない
- ・建物が少ない
- ・営業時間が早い
- ・道の駅が遠い
- ・公園が少ない
- ・山が多い
- ・宅配が来ない（遅い）
- ・入院や手術ができる病院が無い

【議事（2）第3次安平町総合計画策定について】

●気になる点

※次回以降の授業へつなげるための問い。この後意見を収斂し、役場へのヒアリングなどが実施されている。

- ・なぜ教室にクーラーを設置しなかったのか
- ・経済がどう回っているのか
- ・なぜ娯楽施設を作らないのか



【議事（２）第３次安平町総合計画策定について】

今日の感想を教えてください。↵
楽しかった↵
クイズが楽しかったです↵
安平の知らないところが知れてよかった↵
勉強になった。↵
話し合い楽しかったです↵
話し合いが多くて安平町の良さと悪さがよくしれた↵
これから安平町についてもっと世の中に広めて移住者を増やしていきたいと思った↵
特になし↵
安平町は外部から人気なことにとても驚いた↵
安平町の課題を知れて良かった↵
今まで知らなかった安平町の良さを知ることができてよかった↵
安平町のことについてのことがよくわかりました。↵
安平であんまり悪くないんだな↵
安平町を知る良い機会になった↵
これからの授業には、校外学習もあるので楽しみ。↵
これからの町としてスポーツしてる子も多いわけだから、いろいろ施設を建設したりだとかできたらいいなと。(自分の今後として)↵
楽しかった↵
安平町の良さを確認できた↵
結構安平町のことを知っていた。幸福度ランキングがこんな高いとは思わなかった。↵
今日の活動では、自分がまだ知らない安平のことを知ってさらに今後どう活かしていけるかということも改めて考えることができました。↵
安平町は日本の中でも結構有名ということがびっくりした。↵
20年後の人口があんな減ってしまう事に驚きました。↵
みんな協力していて、意見など、発表するときにはそれぞれの班が一致団結していて、声も出ていて良かったです！貴重なお時間をいただいて説明してくれて誠にありがとうございました！↵
安平町が改めてどんなところかが分かった↵
改めて安平町のことを知ることができた。↵
安平町の現状を把握したり、今後のことを考えていく上で、だんだんとどんなことを発表したいかを定めることができた。↵

【議事（2）第3次安平町総合計画策定について】

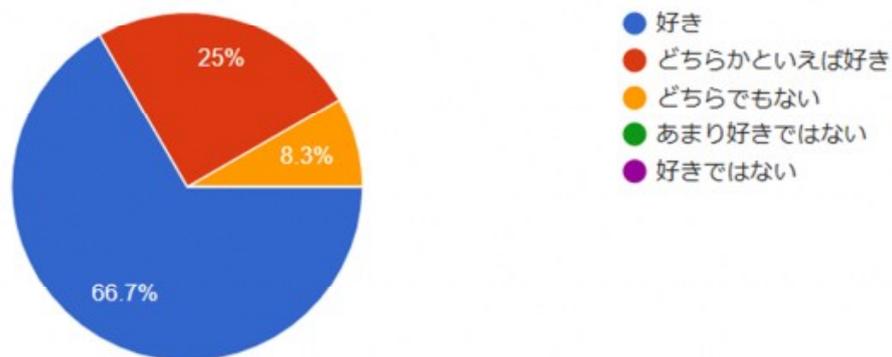
追分中3年生まちづくり授業 ～愛着度等調査

現在安平町が抱える最大の問題は「人口減少」であり、それを少しでも食い止めるために行政はどういったことをしているのか、それを踏まえた皆さんはどう考えるのか（地域とどう関わっていくか）、といった授業を実施した。

3.今日の感想を教えてください。	☆-1.この町が好きですか？	☆-2.えらんだ理由を教えてください。
安平町のためにしている取り組みがいくつかあって驚きました。	好き	自然がたくさんあって、人が少ないから。
三上さんに来ていただきとても良い話が聞けてよかった	どちらかといえば好き	もう少し大きめのスーパーが欲しい
追分の人口や僕たちが知らなかったことを詳しく知れたので良かった。	好き	自然もいっぱいあるしスキーができたりゆくもりのゆなどがあるから。
追分について詳しく知ることができた	好き	自然があって落ち着く場所
安平町についてもう一回理解できたし安平町の特産物について考えることが出来たから。	好き	自然豊かで優しい人が多く人と接しやすい街だと思ったから
班で自分の意見を共有したり、今まで知らなかったことが知れてよかったです。	どちらかといえば好き	電車の本数は少ないけど晴れている日の自然がとても綺麗だから。
安平町の深いところまで知ることができた。	好き	空気が綺麗で、近くの都市まで車でアクセスがよく住みやすいから。
安平町の現状を理解することができた。その課題を解決するために町民である私たちに何ができるかを考えることができた。	好き	自然豊かで町民が優しくて生活しやすいから。
班での意見や、自分の意見をたくさん考えることができてとても有意義な時間を過ごすことができた。	どちらかといえば好き	修学旅行に行く前まではあまり思っていなかったが、修学旅行で東京に行き、都会よりも穏やかな追分のほうがいいと思ったからです。
安平町について知っていると思っていたが、色々なランキングで上位にいることなどを知ることができとても自分の町を誇りに思うことができた。	好き	気を使わずにのびのびと生活でき、自然豊かで空気が綺麗なため。
今日の授業でもっと安平町のいい所とかを知る事が出来たのでよかったです。	好き	自然だから。
安平町について深く知ることができた	どちらでもない	メリットとデメリットの半々だから

☆-1.この町が好きですか？

12件の回答



安平町まちづくり町民アンケート 調査報告書



調査の概要

■ 調査目的

「安平町まちづくり基本条例」の理念に基づき、町民の皆様が町の現状(施策)に対してどの程度満足されているかや、将来のまちづくりに対しての考え方を反映させるために実施したものです。

■ 調査方法

【調査対象】 安平町内の全戸配布対象世帯に対し、1世帯につき1冊の調査票を配布した。

【配布方法】 令和7年7月号広報あびらの全戸配布に調査票を折り込んだ。

また、ホームページや各種SNSを活用した周知及び各種会議やイベントへ出張しPRや配布を実施した。

【回収方法】 調査票に同封した封筒による郵送またはオンラインにより回答いただいた。

【実施期間】 令和7年7月7日～8月6日

■ 回収結果

【配布数】 3,112世帯 (前回:3,840世帯、▲728世帯)

【回答数】 389世帯 (前回689世帯、▲300世帯)

【回収率】 12.5% (前回17.9%、▲5.4ポイント)

■ 調査項目

(問1) 回答者の「性別」「年齢」「職業」「居住地」「居住歴」

(問2) 安平町に住むようになった理由

(問3) 安平町に対する現状の満足度、将来における重要度

(問4) 今後の安平町に求める特色(まちづくり)

(問5) 「望ましい姿」・「目指すべき姿」・「進むべき方向性」など事由記載



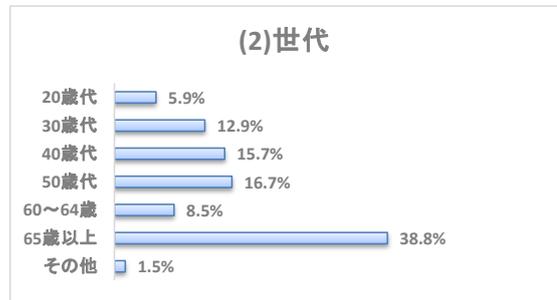
問1(1).あなたの性別は？

	件数	割合
1 男性	196人	50.4%
2 女性	173人	44.5%
0 その他	20人	5.1%
合計	389人	100.0%



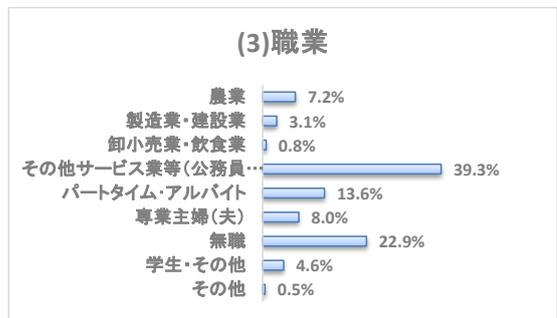
問1(2).あなたの年齢は？

	件数	割合
1 20歳代	23人	5.9%
2 30歳代	50人	12.9%
3 40歳代	61人	15.7%
4 50歳代	65人	16.7%
5 60～64歳	33人	8.5%
6 65歳以上	151人	38.8%
0 その他	6人	1.5%
合計	389人	100.0%



問1(3).あなたの職業は？

	件数	割合
1 農業	28人	7.2%
2 製造業・建設業	12人	3.1%
3 卸小売業・飲食業	3人	0.8%
4 その他サービス等(公務員を含む)	153人	39.3%
5 パートタイム・アルバイト	53人	13.6%
6 専業主婦(夫)	31人	8.0%
7 無職	89人	22.9%
8 学生・その他	18人	4.6%
0 その他	2人	0.5%
合計	389人	100.0%

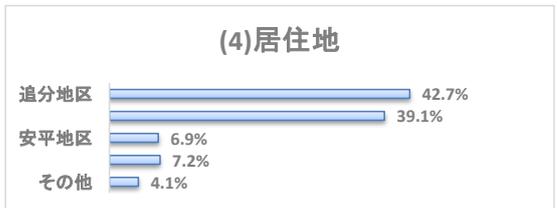


問1(4)

	件数	割合
① 3歳未満の乳幼児がいる	26人	6.7%
② 園児がいる	37人	9.5%
③ 小・中学生がいる	70人	18.0%
④ 高校生がいる	34人	8.7%
⑤ 大学生・専門学校生(短大・院生を含む)が	23人	5.9%
⑥ 上記以外の18～64歳までの方がいる(配偶	162人	41.6%
⑦ 65歳以上の高齢者がいる(配偶者を含む)	115人	29.6%
0 単身世帯	98人	25.2%
合計	565人	145.2%

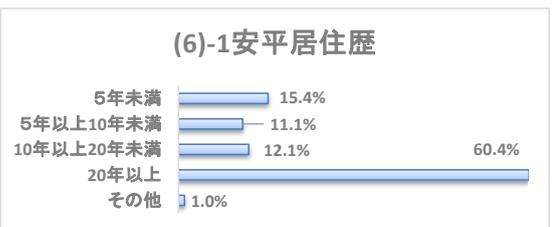
問1(5).あなたの居住地は？

	件数	割合
1 追分地区	166人	42.7%
2 早来地区	152人	39.1%
3 安平地区	27人	6.9%
4 遠浅地区	28人	7.2%
0 その他	16人	4.1%
合計	389人	100.0%



問1(6)-1.あなたの安平町での居住歴は？

	件数	割合
1 5年未満	60人	15.4%
2 5年以上10年未満	43人	11.1%
3 10年以上20年未満	47人	12.1%
4 20年以上	235人	60.4%
0 その他	4人	1.0%
合計	389人	100.0%



問1(6)-2.あなたの安平町への居住の経過は？

		件数	割合
1	生まれてから今まで住んでいる。	60人	15.4%
2	安平町出身で、安平町以外で居住経験がある。	61人	15.7%
3	道内他市町村から転入	199人	51.2%
4	北海道外から転入	59人	15.2%
0	その他	10人	2.6%
	合計	389人	100.0%

(6)-2安平来歴



問2.あなたが安平町に住むようになった理由は？

		件数	割合
1	生まれてから今まで安平町に住んでいる。	59人	9.1%
2	実家がある(あった)。	87人	13.4%
3	就職・転勤・進学など	147人	22.7%
4	配偶者が住んでいた。	52人	8.0%
5	家族・親戚などが住んでいた。	28人	4.3%
6	買い物など日常生活に便利	8人	1.2%
7	通勤・通学などに便利	30人	4.6%
8	病院などへの通院に便利	5人	0.8%
9	居住環境が良かった。(周辺環境など)	48人	7.4%
10	教育・子育て環境が良かった。	37人	5.7%
11	希望する物件があった。	37人	5.7%
12	自然が豊かだから。	50人	7.7%
13	立地が良いから。	38人	5.9%
14	その他	23人	3.5%
	合計	649人	100.0%

問2安平町居住理由



問2-2.その他のコメント内容

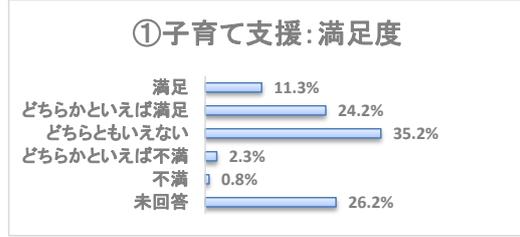
コメント内容	件数
1 空欄	3
2 結婚	3
3 小学校1年の時 父の転勤で江別から来ました。	1
4 地価が安く家を建てるのに条件が良かった	1
5 兄弟が追分に住んでいる	1
6 良く分からず来ました	1
7 憧れだけで	1
8 主人の職場からそこそこの距離で通えたため	1
9 半導体関連企業の誘致活動	1
10 追分の住民にあたたかい人が多かったから	1
11 交通の要所	1
12 土地が安かったため	1
13 介護	2
14 早来学園とはやきたこども園に子ども達を通わせたかった	1
15 家業を継ぐのに安平町に住むのが便利だから。	1
16 配偶者の再就職先	1
17 千歳・恵庭で土地を探していたが良い土地がなくエリアを広げて探し、千歳の会社へ通勤圏内であったため	1
18 戸建て購入を検討していた土地が安くかつ苦小牧と千歳にもアクセスしやすかったから	1

問3重要度・満足度調査

1. 子育て・教育分野

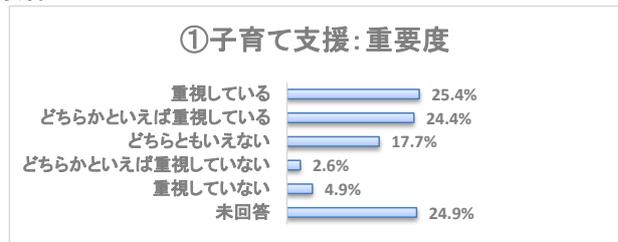
①子育て支援(妊娠出産・母子保健(健診・予防接種)・ひとり親支援など)の満足度

	件数	割合
1 満足	44人	11.3%
2 どちらかといえば満足	94人	24.2%
3 どちらともいえない	137人	35.2%
4 どちらかといえば不満	9人	2.3%
5 不満	3人	0.8%
0 未回答	102人	26.2%
合計	389人	100.0%



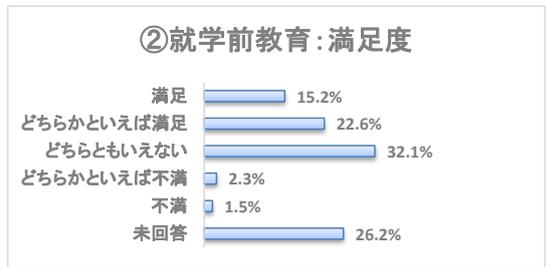
①子育て支援(妊娠出産・母子保健(健診・予防接種)・ひとり親支援など)の重要度

	件数	割合
1 重視している	99人	25.4%
2 どちらかといえば重視している	95人	24.4%
3 どちらともいえない	69人	17.7%
4 どちらかといえば重視していない	10人	2.6%
5 重視していない	19人	4.9%
0 未回答	97人	24.9%
合計	389人	100.0%



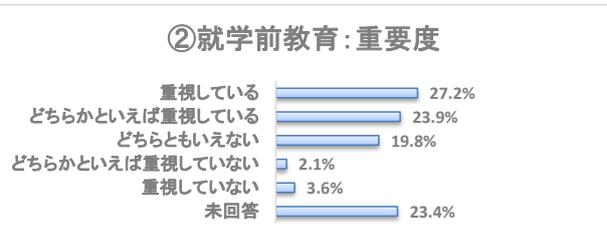
②就学前教育(認定こども園・小規模保育事業所・遊び支援など)の満足度

	件数	割合
1 満足	59人	15.2%
2 どちらかといえば満足	88人	22.6%
3 どちらともいえない	125人	32.1%
4 どちらかといえば不満	9人	2.3%
5 不満	6人	1.5%
0 未回答	102人	26.2%
合計	389人	100.0%



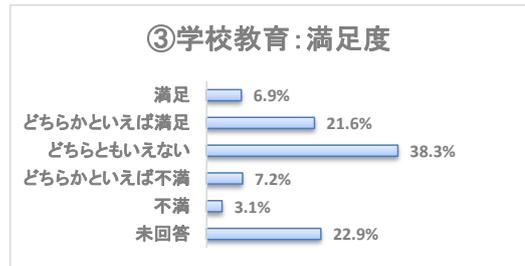
②就学前教育(認定こども園・小規模保育事業所・遊び支援など)の重要度

	件数	割合
1 重視している	106人	27.2%
2 どちらかといえば重視している	93人	23.9%
3 どちらともいえない	77人	19.8%
4 どちらかといえば重視していない	8人	2.1%
5 重視していない	14人	3.6%
0 未回答	91人	23.4%
合計	389人	100.0%



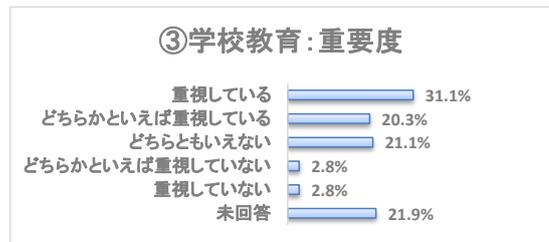
③学校教育(学校における教育内容・教育施設の充実・学力体力向上など)の満足度

	件数	割合
1 満足	27人	6.9%
2 どちらかといえば満足	84人	21.6%
3 どちらともいえない	149人	38.3%
4 どちらかといえば不満	28人	7.2%
5 不満	12人	3.1%
0 未回答	89人	22.9%
合計	389人	100.0%



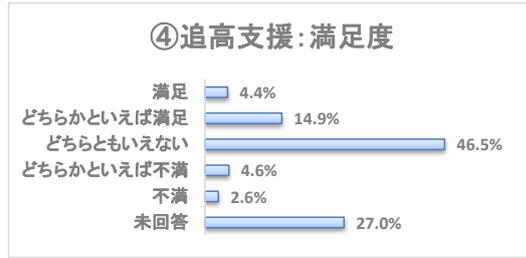
③学校教育(学校における教育内容・教育施設の充実・学力体力向上など)の重要度

	件数	割合
1 重視している	121人	31.1%
2 どちらかといえば重視している	79人	20.3%
3 どちらともいえない	82人	21.1%
4 どちらかといえば重視していない	11人	2.8%
5 重視していない	11人	2.8%
0 未回答	85人	21.9%
合計	389人	100.0%



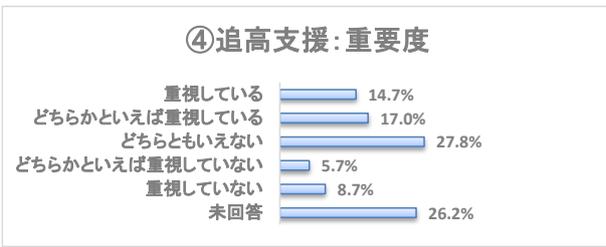
④追分高等学校支援(道立追分高校の存続支援など)の満足度

	件数	割合
1 満足	17人	4.4%
2 どちらかといえば満足	58人	14.9%
3 どちらともいえない	181人	46.5%
4 どちらかといえば不満	18人	4.6%
5 不満	10人	2.6%
0 未回答	105人	27.0%
合計	389人	100.0%



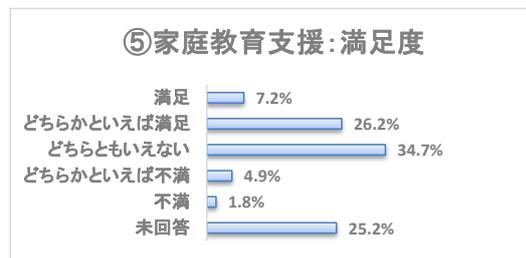
④追分高等学校支援(道立追分高校の存続支援など)の重要度

	件数	割合
1 重視している	57人	14.7%
2 どちらかといえば重視している	66人	17.0%
3 どちらともいえない	108人	27.8%
4 どちらかといえば重視していない	22人	5.7%
5 重視していない	34人	8.7%
0 未回答	102人	26.2%
合計	389人	100.0%



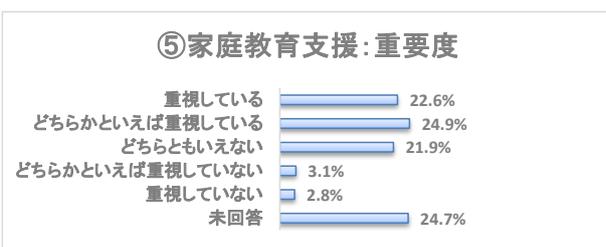
⑤家庭教育支援(児童館・放課後児童クラブなど)の満足度

	件数	割合
1 満足	28人	7.2%
2 どちらかといえば満足	102人	26.2%
3 どちらともいえない	135人	34.7%
4 どちらかといえば不満	19人	4.9%
5 不満	7人	1.8%
0 未回答	98人	25.2%
合計	389人	100.0%



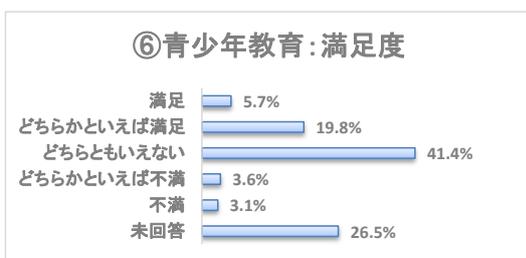
⑤家庭教育支援(児童館・放課後児童クラブなど)の重要度

	件数	割合
1 重視している	88人	22.6%
2 どちらかといえば重視している	97人	24.9%
3 どちらともいえない	85人	21.9%
4 どちらかといえば重視していない	12人	3.1%
5 重視していない	11人	2.8%
0 未回答	96人	24.7%
合計	389人	100.0%



⑥青少年教育(ふるさと教育・文化/スポーツ活動など)の満足度

	件数	割合
1 満足	22人	5.7%
2 どちらかといえば満足	77人	19.8%
3 どちらともいえない	161人	41.4%
4 どちらかといえば不満	14人	3.6%
5 不満	12人	3.1%
0 未回答	103人	26.5%
合計	389人	100.0%



⑥青少年教育(ふるさと教育・文化/スポーツ活動など)の重要度

	件数	割合
1 重視している	71人	18.3%
2 どちらかといえば重視している	102人	26.2%
3 どちらともいえない	94人	24.2%
4 どちらかといえば重視していない	14人	3.6%
5 重視していない	11人	2.8%
0 未回答	97人	24.9%
合計	389人	100.0%



2. 人づくり・コミュニティ分野

①地域コミュニティ(自治会/町内会支援・まちづくり協議会(遠浅地区・安平地区)など)の満足度

	件数	割合
1 満足	32人	8.2%
2 どちらかといえば満足	104人	26.7%
3 どちらともいえない	146人	37.5%
4 どちらかといえば不満	43人	11.1%
5 不満	17人	4.4%
0 未回答	47人	12.1%
合計	389人	100.0%

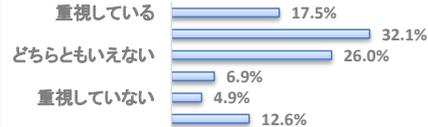
①地域コミュニティ:満足度



①地域コミュニティ(自治会/町内会支援・まちづくり協議会(遠浅地区・安平地区)など)の重要度

	件数	割合
1 重視している	68人	17.5%
2 どちらかといえば重視している	125人	32.1%
3 どちらともいえない	101人	26.0%
4 どちらかといえば重視していない	27人	6.9%
5 重視していない	19人	4.9%
0 未回答	49人	12.6%
合計	389人	100.0%

①地域コミュニティ:重要度



②協働のまちづくり(まちづくり事業支援交付金・地域おこし協力隊制度の活用など)の満足度

	件数	割合
1 満足	31人	8.0%
2 どちらかといえば満足	99人	25.4%
3 どちらともいえない	149人	38.3%
4 どちらかといえば不満	33人	8.5%
5 不満	24人	6.2%
0 未回答	53人	13.6%
合計	389人	100.0%

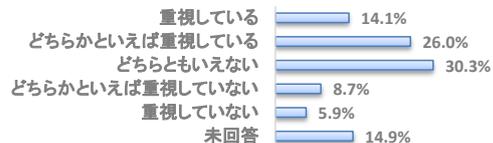
②協働のまちづくり:満足度



②協働のまちづくり(まちづくり事業支援交付金・地域おこし協力隊制度の活用など)の重要度

	件数	割合
1 重視している	55人	14.1%
2 どちらかといえば重視している	101人	26.0%
3 どちらともいえない	118人	30.3%
4 どちらかといえば重視していない	34人	8.7%
5 重視していない	23人	5.9%
0 未回答	58人	14.9%
合計	389人	100.0%

②協働のまちづくり:重要度



③生涯学習・社会教育(あびら教育プラン・公民館事業・生涯学習フェスティバルなど)の満足度

	件数	割合
1 満足	30人	7.7%
2 どちらかといえば満足	86人	22.1%
3 どちらともいえない	171人	44.0%
4 どちらかといえば不満	29人	7.5%
5 不満	12人	3.1%
0 未回答	61人	15.7%
合計	389人	100.0%

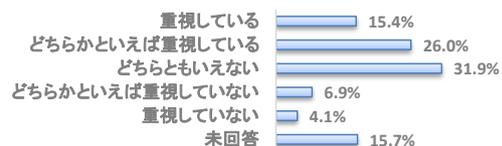
③生涯学習・社会教育:満足度



③生涯学習・社会教育(あびら教育プラン・公民館事業・生涯学習フェスティバルなど)の重要度

	件数	割合
1 重視している	60人	15.4%
2 どちらかといえば重視している	101人	26.0%
3 どちらともいえない	124人	31.9%
4 どちらかといえば重視していない	27人	6.9%
5 重視していない	16人	4.1%
0 未回答	61人	15.7%
合計	389人	100.0%

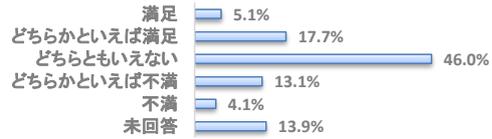
③生涯学習・社会教育:重要度



④芸術・文化(芸術鑑賞会・郷土/鉄道資料館など)の満足度

	件数	割合
1 満足	20人	5.1%
2 どちらかといえば満足	69人	17.7%
3 どちらともいえない	179人	46.0%
4 どちらかといえば不満	51人	13.1%
5 不満	16人	4.1%
0 未回答	54人	13.9%
合計	389人	100.0%

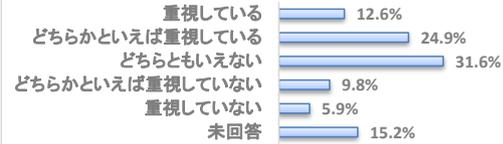
④芸術・文化:満足度



④芸術・文化(芸術鑑賞会・郷土/鉄道資料館など)の重要度

	件数	割合
1 重視している	49人	12.6%
2 どちらかといえば重視している	97人	24.9%
3 どちらともいえない	123人	31.6%
4 どちらかといえば重視していない	38人	9.8%
5 重視していない	23人	5.9%
0 未回答	59人	15.2%
合計	389人	100.0%

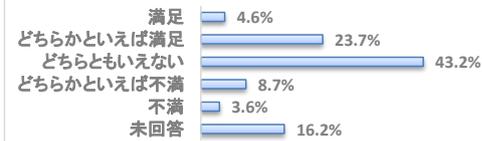
④芸術・文化:重要度



⑤スポーツ振興(生涯スポーツ活動・スポーツ団体支援など)の満足度

	件数	割合
1 満足	18人	4.6%
2 どちらかといえば満足	92人	23.7%
3 どちらともいえない	168人	43.2%
4 どちらかといえば不満	34人	8.7%
5 不満	14人	3.6%
0 未回答	63人	16.2%
合計	389人	100.0%

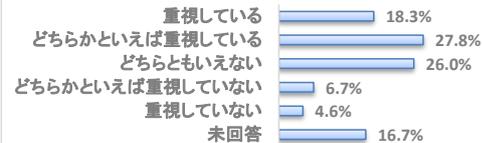
⑤スポーツ振興:満足度



⑤スポーツ振興(生涯スポーツ活動・スポーツ団体支援など)の重要度

	件数	割合
1 重視している	71人	18.3%
2 どちらかといえば重視している	108人	27.8%
3 どちらともいえない	101人	26.0%
4 どちらかといえば重視していない	26人	6.7%
5 重視していない	18人	4.6%
0 未回答	65人	16.7%
合計	389人	100.0%

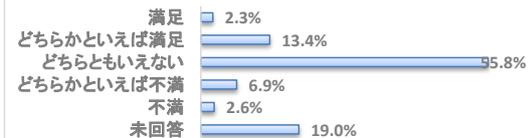
⑤スポーツ振興:重要度



⑥男女共同参画・人権(女性活躍・いじめ/虐待/ドメスティックバイオレンス防止)

	件数	割合
1 満足	9人	2.3%
2 どちらかといえば満足	52人	13.4%
3 どちらともいえない	217人	55.8%
4 どちらかといえば不満	27人	6.9%
5 不満	10人	2.6%
0 未回答	74人	19.0%
合計	389人	100.0%

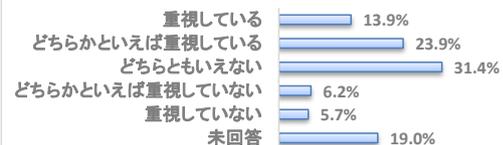
⑥男女共同・人権:満足度



⑥男女共同参画・人権(女性活躍・いじめ/虐待/ドメスティックバイオレンス防止)

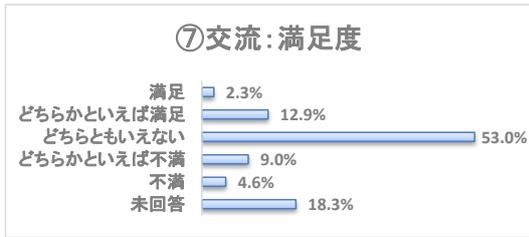
	件数	割合
1 重視している	54人	13.9%
2 どちらかといえば重視している	93人	23.9%
3 どちらともいえない	122人	31.4%
4 どちらかといえば重視していない	24人	6.2%
5 重視していない	22人	5.7%
0 未回答	74人	19.0%
合計	389人	100.0%

⑥男女共同・人権:重要度



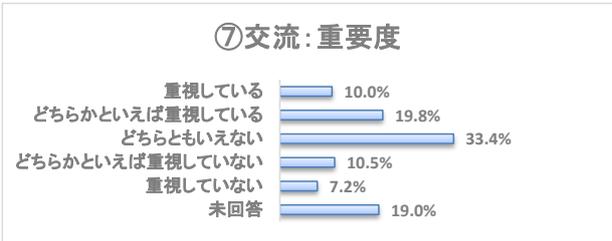
⑦交流(地域間交流・国際交流/国際理解など)の満足度

	件数	割合
1 満足	9人	2.3%
2 どちらかといえば満足	50人	12.9%
3 どちらともいえない	206人	53.0%
4 どちらかといえば不満	35人	9.0%
5 不満	18人	4.6%
0 未回答	71人	18.3%
合計	389人	100.0%



⑦交流(地域間交流・国際交流/国際理解など)の重要度

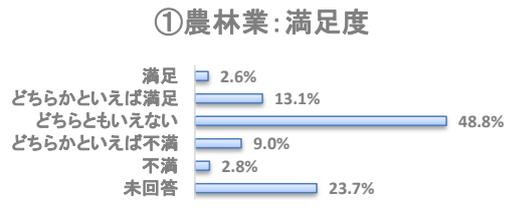
	件数	割合
1 重視している	39人	10.0%
2 どちらかといえば重視している	77人	19.8%
3 どちらともいえない	130人	33.4%
4 どちらかといえば重視していない	41人	10.5%
5 重視していない	28人	7.2%
0 未回答	74人	19.0%
合計	389人	100.0%



3. 経済・産業分野

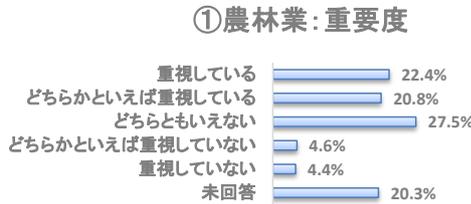
①農林業(持続可能な事業振興・経営強化など)の満足度

	件数	割合
1 満足	10人	2.6%
2 どちらかといえば満足	51人	13.1%
3 どちらともいえない	190人	48.8%
4 どちらかといえば不満	35人	9.0%
5 不満	11人	2.8%
0 未回答	92人	23.7%
合計	389人	100.0%



①農林業(持続可能な事業振興・経営強化など)の重要度

	件数	割合
1 重視している	87人	22.4%
2 どちらかといえば重視している	81人	20.8%
3 どちらともいえない	107人	27.5%
4 どちらかといえば重視していない	18人	4.6%
5 重視していない	17人	4.4%
0 未回答	79人	20.3%
合計	389人	100.0%



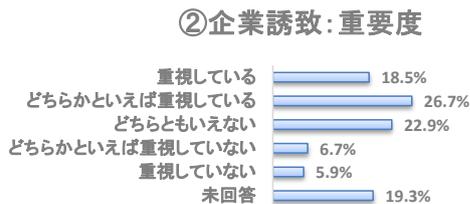
②企業誘致(立地企業支援・誘致活動など)の満足度

	件数	割合
1 満足	5人	1.3%
2 どちらかといえば満足	52人	13.4%
3 どちらともいえない	155人	39.8%
4 どちらかといえば不満	60人	15.4%
5 不満	39人	10.0%
0 未回答	78人	20.1%
合計	389人	100.0%



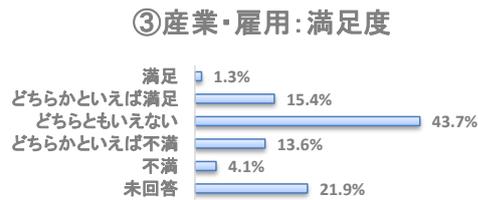
②企業誘致(立地企業支援・誘致活動など)の重要度

	件数	割合
1 重視している	72人	18.5%
2 どちらかといえば重視している	104人	26.7%
3 どちらともいえない	89人	22.9%
4 どちらかといえば重視していない	26人	6.7%
5 重視していない	23人	5.9%
0 未回答	75人	19.3%
合計	389人	100.0%



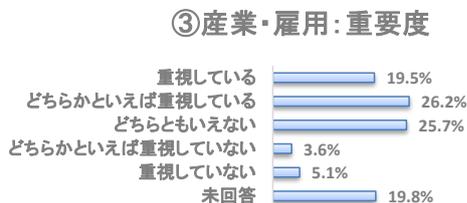
③産業振興・雇用就労(起業創業・就労支援・販路拡大など)の満足度

	件数	割合
1 満足	5人	1.3%
2 どちらかといえば満足	60人	15.4%
3 どちらともいえない	170人	43.7%
4 どちらかといえば不満	53人	13.6%
5 不満	16人	4.1%
0 未回答	85人	21.9%
合計	389人	100.0%



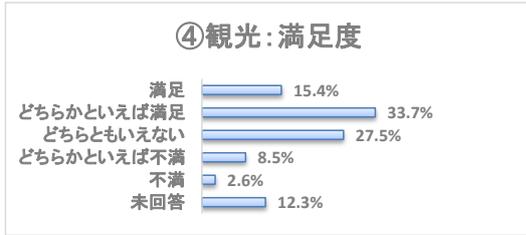
③産業振興・雇用就労(起業創業・就労支援・販路拡大など)の重要度

	件数	割合
1 重視している	76人	19.5%
2 どちらかといえば重視している	102人	26.2%
3 どちらともいえない	100人	25.7%
4 どちらかといえば重視していない	14人	3.6%
5 重視していない	20人	5.1%
0 未回答	77人	19.8%
合計	389人	100.0%



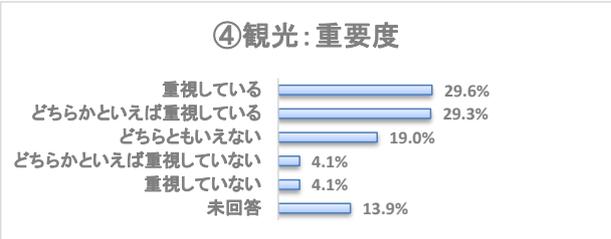
④観光(道の駅・合宿誘致・収穫体験など)の満足度

	件数	割合
1 満足	60人	15.4%
2 どちらかといえば満足	131人	33.7%
3 どちらともいえない	107人	27.5%
4 どちらかといえば不満	33人	8.5%
5 不満	10人	2.6%
0 未回答	48人	12.3%
合計	389人	100.0%



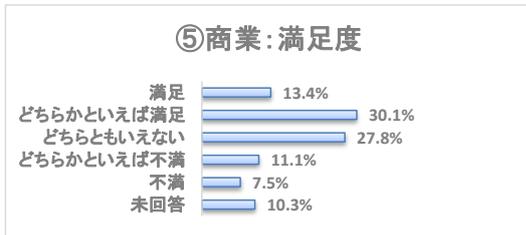
④観光(道の駅・合宿誘致・収穫体験など)の重要度

	件数	割合
1 重視している	115人	29.6%
2 どちらかといえば重視している	114人	29.3%
3 どちらともいえない	74人	19.0%
4 どちらかといえば重視していない	16人	4.1%
5 重視していない	16人	4.1%
0 未回答	54人	13.9%
合計	389人	100.0%



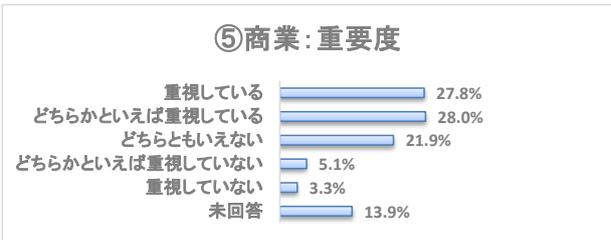
⑤商業(プレミアム商品券・事業継承・ポイントあびらなど)の満足度

	件数	割合
1 満足	52人	13.4%
2 どちらかといえば満足	117人	30.1%
3 どちらともいえない	108人	27.8%
4 どちらかといえば不満	43人	11.1%
5 不満	29人	7.5%
0 未回答	40人	10.3%
合計	389人	100.0%



⑤商業(プレミアム商品券・事業継承・ポイントあびらなど)の重要度

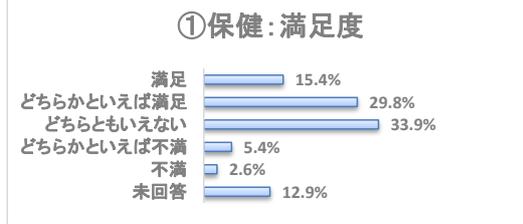
	件数	割合
1 重視している	108人	27.8%
2 どちらかといえば重視している	109人	28.0%
3 どちらともいえない	85人	21.9%
4 どちらかといえば重視していない	20人	5.1%
5 重視していない	13人	3.3%
0 未回答	54人	13.9%
合計	389人	100.0%



4. 健康・福祉分野

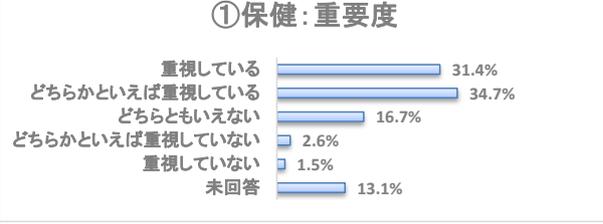
①保健(健康寿命延伸・健診/予防など)の満足度

	件数	割合
1 満足	60人	15.4%
2 どちらかといえば満足	116人	29.8%
3 どちらともいえない	132人	33.9%
4 どちらかといえば不満	21人	5.4%
5 不満	10人	2.6%
0 未回答	50人	12.9%
合計	389人	100.0%



①保健(健康寿命延伸・健診/予防など)の重要度

	件数	割合
1 重視している	122人	31.4%
2 どちらかといえば重視している	135人	34.7%
3 どちらともいえない	65人	16.7%
4 どちらかといえば重視していない	10人	2.6%
5 重視していない	6人	1.5%
0 未回答	51人	13.1%
合計	389人	100.0%



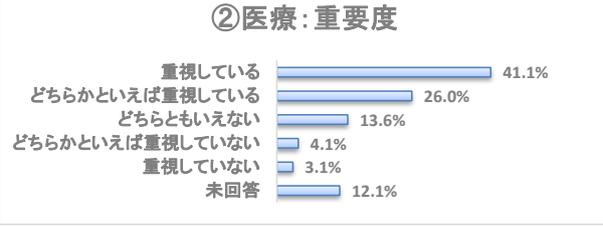
②医療(町内医療機関の確保・支援など)の満足度

	件数	割合
1 満足	21人	5.4%
2 どちらかといえば満足	68人	17.5%
3 どちらともいえない	119人	30.6%
4 どちらかといえば不満	77人	19.8%
5 不満	61人	15.7%
0 未回答	43人	11.1%
合計	389人	100.0%



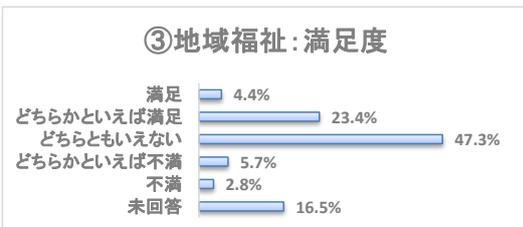
②医療(町内医療機関の確保・支援など)の重要度

	件数	割合
1 重視している	160人	41.1%
2 どちらかといえば重視している	101人	26.0%
3 どちらともいえない	53人	13.6%
4 どちらかといえば重視していない	16人	4.1%
5 重視していない	12人	3.1%
0 未回答	47人	12.1%
合計	389人	100.0%



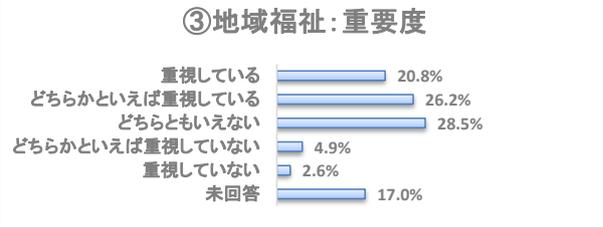
③地域福祉(見守りネットワーク・ボランティア活動支援など)の満足度

	件数	割合
1 満足	17人	4.4%
2 どちらかといえば満足	91人	23.4%
3 どちらともいえない	184人	47.3%
4 どちらかといえば不満	22人	5.7%
5 不満	11人	2.8%
0 未回答	64人	16.5%
合計	389人	100.0%



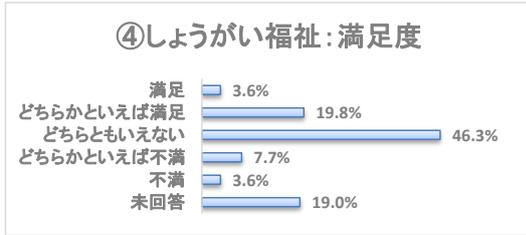
③地域福祉(見守りネットワーク・ボランティア活動支援など)の重要度

	件数	割合
1 重視している	81人	20.8%
2 どちらかといえば重視している	102人	26.2%
3 どちらともいえない	111人	28.5%
4 どちらかといえば重視していない	19人	4.9%
5 重視していない	10人	2.6%
0 未回答	66人	17.0%
合計	389人	100.0%



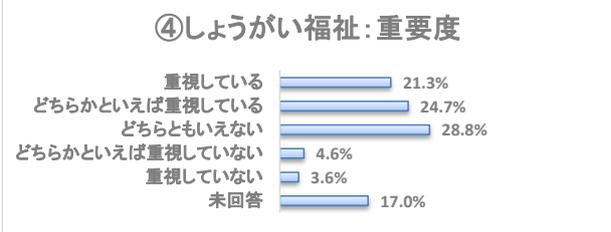
④しょうがい福祉(福祉サービスの充実・共生社会の実現など)の満足度

	件数	割合
1 満足	14人	3.6%
2 どちらかといえば満足	77人	19.8%
3 どちらともいえない	180人	46.3%
4 どちらかといえば不満	30人	7.7%
5 不満	14人	3.6%
0 未回答	74人	19.0%
合計	389人	100.0%



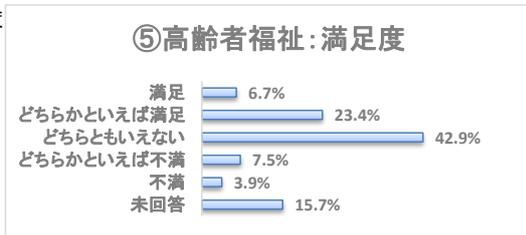
④しょうがい福祉(福祉サービスの充実・共生社会の実現など)の重要度

	件数	割合
1 重視している	83人	21.3%
2 どちらかといえば重視している	96人	24.7%
3 どちらともいえない	112人	28.8%
4 どちらかといえば重視していない	18人	4.6%
5 重視していない	14人	3.6%
0 未回答	66人	17.0%
合計	389人	100.0%



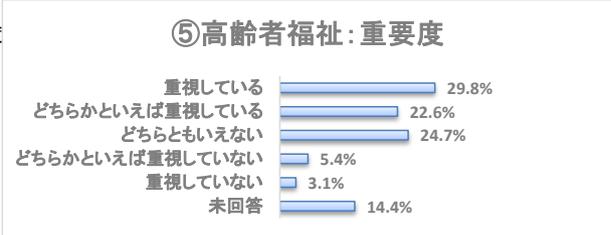
⑤高齢者福祉(介護サービス/予防の充実・高齢者施設の充実など)の満足度

	件数	割合
1 満足	26人	6.7%
2 どちらかといえば満足	91人	23.4%
3 どちらともいえない	167人	42.9%
4 どちらかといえば不満	29人	7.5%
5 不満	15人	3.9%
0 未回答	61人	15.7%
合計	389人	100.0%



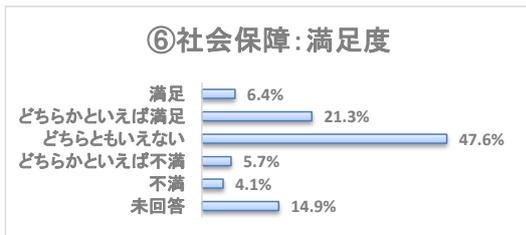
⑤高齢者福祉(介護サービス/予防の充実・高齢者施設の充実など)の重要度

	件数	割合
1 重視している	116人	29.8%
2 どちらかといえば重視している	88人	22.6%
3 どちらともいえない	96人	24.7%
4 どちらかといえば重視していない	21人	5.4%
5 重視していない	12人	3.1%
0 未回答	56人	14.4%
合計	389人	100.0%



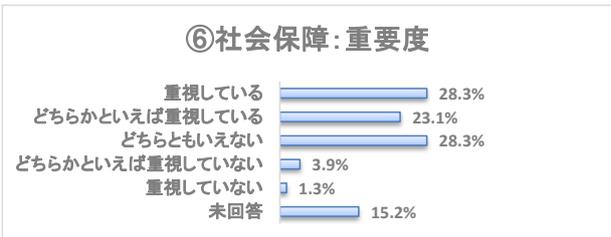
⑥社会保障(健康保険事業や介護保険事業の適正な運営など)の満足度

	件数	割合
1 満足	25人	6.4%
2 どちらかといえば満足	83人	21.3%
3 どちらともいえない	185人	47.6%
4 どちらかといえば不満	22人	5.7%
5 不満	16人	4.1%
0 未回答	58人	14.9%
合計	389人	100.0%



⑥社会保障(健康保険事業や介護保険事業の適正な運営など)の重要度

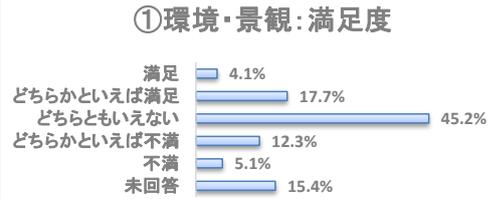
	件数	割合
1 重視している	110人	28.3%
2 どちらかといえば重視している	90人	23.1%
3 どちらともいえない	110人	28.3%
4 どちらかといえば重視していない	15人	3.9%
5 重視していない	5人	1.3%
0 未回答	59人	15.2%
合計	389人	100.0%



5. 生活環境・生活基盤分野

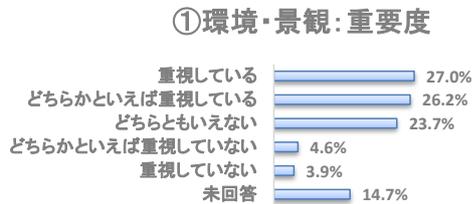
①環境・景観保全(地球温暖化対策・公害防止など)の満足度

	件数	割合
1 満足	16人	4.1%
2 どちらかといえば満足	69人	17.7%
3 どちらともいえない	176人	45.2%
4 どちらかといえば不満	48人	12.3%
5 不満	20人	5.1%
0 未回答	60人	15.4%
合計	389人	100.0%



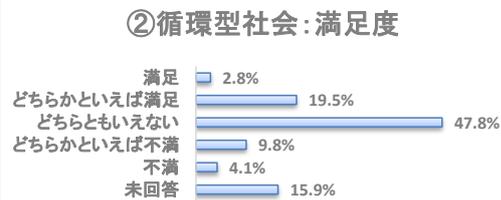
①環境・景観保全(地球温暖化対策・公害防止など)の重要度

	件数	割合
1 重視している	105人	27.0%
2 どちらかといえば重視している	102人	26.2%
3 どちらともいえない	92人	23.7%
4 どちらかといえば重視していない	18人	4.6%
5 重視していない	15人	3.9%
0 未回答	57人	14.7%
合計	389人	100.0%



②循環型社会(再生エネルギーの活用・資源リサイクルの促進など)の満足度

	件数	割合
1 満足	11人	2.8%
2 どちらかといえば満足	76人	19.5%
3 どちらともいえない	186人	47.8%
4 どちらかといえば不満	38人	9.8%
5 不満	16人	4.1%
0 未回答	62人	15.9%
合計	389人	100.0%



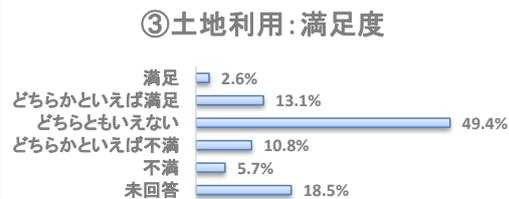
②循環型社会(再生エネルギーの活用・資源リサイクルの促進など)の重要度

	件数	割合
1 重視している	80人	20.6%
2 どちらかといえば重視している	108人	27.8%
3 どちらともいえない	103人	26.5%
4 どちらかといえば重視していない	21人	5.4%
5 重視していない	22人	5.7%
0 未回答	55人	14.1%
合計	389人	100.0%



③土地利用(自然を活かした滞在(グリーンツーリズム)など)の満足度

	件数	割合
1 満足	10人	2.6%
2 どちらかといえば満足	51人	13.1%
3 どちらともいえない	192人	49.4%
4 どちらかといえば不満	42人	10.8%
5 不満	22人	5.7%
0 未回答	72人	18.5%
合計	389人	100.0%



③土地利用(自然を活かした滞在(グリーンツーリズム)など)の重要度

	件数	割合
1 重視している	49人	12.6%
2 どちらかといえば重視している	89人	22.9%
3 どちらともいえない	130人	33.4%
4 どちらかといえば重視していない	27人	6.9%
5 重視していない	25人	6.4%
0 未回答	69人	17.7%
合計	389人	100.0%



④生活インフラ(道路・上/下水道・情報通信など)の満足度

	件数	割合
1 満足	30人	7.7%
2 どちらかといえば満足	97人	24.9%
3 どちらともいえない	114人	29.3%
4 どちらかといえば不満	67人	17.2%
5 不満	37人	9.5%
0 未回答	44人	11.3%
合計	389人	100.0%

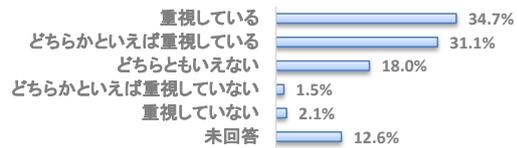
④生活インフラ:満足度



④生活インフラ(道路・上/下水道・情報通信など)の重要度

	件数	割合
1 重視している	135人	34.7%
2 どちらかといえば重視している	121人	31.1%
3 どちらともいえない	70人	18.0%
4 どちらかといえば重視していない	6人	1.5%
5 重視していない	8人	2.1%
0 未回答	49人	12.6%
合計	389人	100.0%

④生活インフラ:重要度



⑤住環境整備(宅地分譲・空き家対策・民間アパート建設助成など)の満足度

	件数	割合
1 満足	13人	3.3%
2 どちらかといえば満足	52人	13.4%
3 どちらともいえない	153人	39.3%
4 どちらかといえば不満	69人	17.7%
5 不満	40人	10.3%
0 未回答	62人	15.9%
合計	389人	100.0%

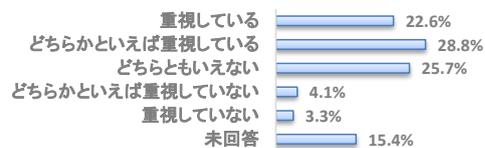
⑤住環境整備:満足度



⑤住環境整備(宅地分譲・空き家対策・民間アパート建設助成など)の重要度

	件数	割合
1 重視している	88人	22.6%
2 どちらかといえば重視している	112人	28.8%
3 どちらともいえない	100人	25.7%
4 どちらかといえば重視していない	16人	4.1%
5 重視していない	13人	3.3%
0 未回答	60人	15.4%
合計	389人	100.0%

⑤住環境整備:重要度



⑥移住・定住対策(移住者支援・おためし暮らし住宅の提供など)の満足度

	件数	割合
1 満足	19人	4.9%
2 どちらかといえば満足	70人	18.0%
3 どちらともいえない	172人	44.2%
4 どちらかといえば不満	40人	10.3%
5 不満	15人	3.9%
0 未回答	73人	18.8%
合計	389人	100.0%

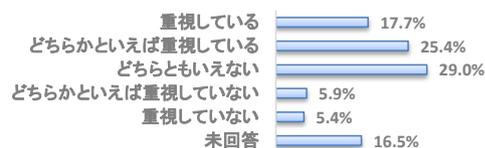
⑥移住・定住:満足度



⑥移住・定住対策(移住者支援・おためし暮らし住宅の提供など)の重要度

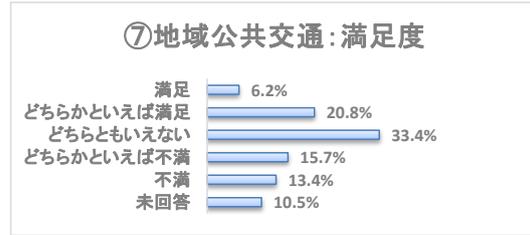
	件数	割合
1 重視している	69人	17.7%
2 どちらかといえば重視している	99人	25.4%
3 どちらともいえない	113人	29.0%
4 どちらかといえば重視していない	23人	5.9%
5 重視していない	21人	5.4%
0 未回答	64人	16.5%
合計	389人	100.0%

⑥移住・定住:重要度



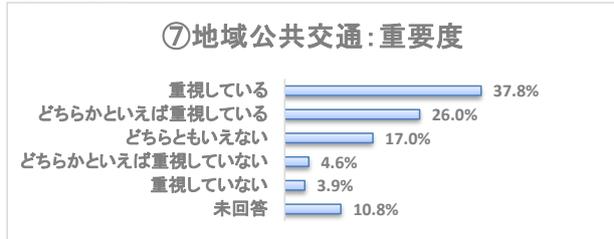
⑦地域公共交通(JR存続支援・デマンド/循環バス事業・ハイヤー事業者支援など)の満足度

	件数	割合
1 満足	24人	6.2%
2 どちらかといえば満足	81人	20.8%
3 どちらともいえない	130人	33.4%
4 どちらかといえば不満	61人	15.7%
5 不満	52人	13.4%
0 未回答	41人	10.5%
合計	389人	100.0%



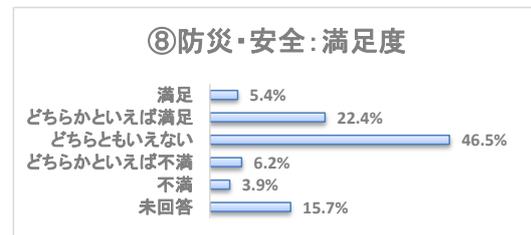
⑦地域公共交通(JR存続支援・デマンド/循環バス事業・ハイヤー事業者支援など)の重要度

	件数	割合
1 重視している	147人	37.8%
2 どちらかといえば重視している	101人	26.0%
3 どちらともいえない	66人	17.0%
4 どちらかといえば重視していない	18人	4.6%
5 重視していない	15人	3.9%
0 未回答	42人	10.8%
合計	389人	100.0%



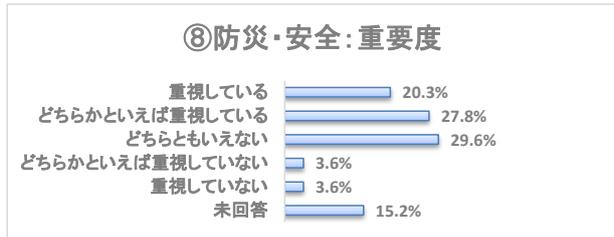
⑧消防防災・交通安全・消費生活(自主防災組織・犯罪予防など)の満足度

	件数	割合
1 満足	21人	5.4%
2 どちらかといえば満足	87人	22.4%
3 どちらともいえない	181人	46.5%
4 どちらかといえば不満	24人	6.2%
5 不満	15人	3.9%
0 未回答	61人	15.7%
合計	389人	100.0%



⑧消防防災・交通安全・消費生活(自主防災組織・犯罪予防など)の重要度

	件数	割合
1 重視している	79人	20.3%
2 どちらかといえば重視している	108人	27.8%
3 どちらともいえない	115人	29.6%
4 どちらかといえば重視していない	14人	3.6%
5 重視していない	14人	3.6%
0 未回答	59人	15.2%
合計	389人	100.0%



6. 行財政運営分野

①情報発信(知名度向上・あびらチャンネルなど)の満足度

	件数	割合
1 満足	45人	11.6%
2 どちらかといえば満足	99人	25.4%
3 どちらともいえない	129人	33.2%
4 どちらかといえば不満	44人	11.3%
5 不満	17人	4.4%
0 未回答	55人	14.1%
合計	389人	100.0%

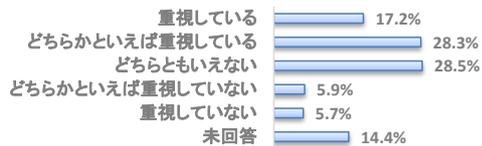
①情報発信:満足度



①情報発信(知名度向上・あびらチャンネルなど)の重要度

	件数	割合
1 重視している	67人	17.2%
2 どちらかといえば重視している	110人	28.3%
3 どちらともいえない	111人	28.5%
4 どちらかといえば重視していない	23人	5.9%
5 重視していない	22人	5.7%
0 未回答	56人	14.4%
合計	389人	100.0%

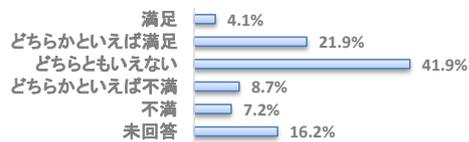
①情報発信:重要度



②住民サービス(町民参画の推進・町職員の育成・地域サポート制度など)の満足度

	件数	割合
1 満足	16人	4.1%
2 どちらかといえば満足	85人	21.9%
3 どちらともいえない	163人	41.9%
4 どちらかといえば不満	34人	8.7%
5 不満	28人	7.2%
0 未回答	63人	16.2%
合計	389人	100.0%

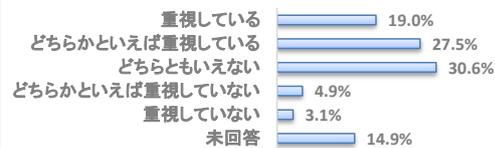
②住民サービス:満足度



②住民サービス(町民参画の推進・町職員の育成・地域サポート制度など)の重要度

	件数	割合
1 重視している	74人	19.0%
2 どちらかといえば重視している	107人	27.5%
3 どちらともいえない	119人	30.6%
4 どちらかといえば重視していない	19人	4.9%
5 重視していない	12人	3.1%
0 未回答	58人	14.9%
合計	389人	100.0%

②住民サービス:重要度



③行財政運営(町財政の健全化・行政手続きの電子化・施設統廃合など)の満足度

	件数	割合
1 満足	22人	5.7%
2 どちらかといえば満足	78人	20.1%
3 どちらともいえない	161人	41.4%
4 どちらかといえば不満	35人	9.0%
5 不満	25人	6.4%
0 未回答	68人	17.5%
合計	389人	100.0%

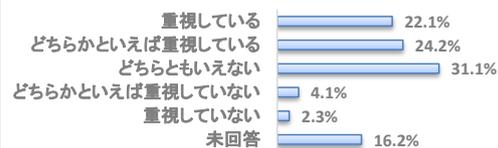
③行財政運営:満足度



③行財政運営(町財政の健全化・行政手続きの電子化・施設統廃合など)の重要度

	件数	割合
1 重視している	86人	22.1%
2 どちらかといえば重視している	94人	24.2%
3 どちらともいえない	121人	31.1%
4 どちらかといえば重視していない	16人	4.1%
5 重視していない	9人	2.3%
0 未回答	63人	16.2%
合計	389人	100.0%

③行財政運営:重要度



1 子育て・教育分野

項目	今回(A)		前回(B)		差(A-B)	
	満足度	重要度	満足度	重要度	満足度	重要度
子育て支援	↑ 3.58	↑ 3.84	↑ 3.28	⇒ 3.88	⇒ 0.30	⇒ -0.04
就学前教育	↑ 3.64	↑ 3.90	↑ 3.28	⇒ 3.88	⇒ 0.36	⇒ 0.02
学校教育	⇒ 3.29	↑ 3.95	↑ 3.69	↑ 4.07	↓ -0.40	⇒ -0.12
追分高等学校支援	⇒ 3.19	↓ 3.31	⇒ 3.15	↓ 3.48	↓ 0.04	⇒ -0.17
家庭教育支援	↑ 3.43	↑ 3.82	—	—	#VALUE!	#VALUE!
青少年教育	⇒ 3.29	⇒ 3.71	—	—	#VALUE!	#VALUE!
平均	↑ 3.40	⇒ 3.76	↑ 3.35	⇒ 3.83	⇒ 0.05	⇒ -0.07

2 人づくり・コミュニティ分野

項目	今回(A)		前回(B)		差(A-B)	
	満足度	重要度	満足度	重要度	満足度	重要度
地域コミュニティ	⇒ 3.27	⇒ 3.58	↑ 3.26	↓ 3.53	↓ 0.01	↑ 0.05
協働のまちづくり	⇒ 3.24	↓ 3.40	⇒ 3.14	↓ 3.37	⇒ 0.10	⇒ 0.03
生涯学習・社会教育	⇒ 3.28	⇒ 3.49	⇒ 3.18	⇒ 3.65	⇒ 0.10	⇒ -0.16
芸術文化	⇒ 3.08	↓ 3.34	⇒ 3.18	⇒ 3.65	↓ -0.10	↓ -0.31
スポーツ振興	⇒ 3.20	⇒ 3.58	⇒ 3.18	⇒ 3.65	↓ 0.02	⇒ -0.07
男女共同参画(人権)	⇒ 3.07	↓ 3.42	⇒ 3.09	↓ 3.47	↓ -0.02	⇒ -0.05
交流	↓ 2.99	↓ 3.18	⇒ 3.09	↓ 3.33	↓ -0.10	⇒ -0.15
平均	⇒ 3.16	↓ 3.43	⇒ 3.16	↓ 3.52	↓ 0.00	⇒ -0.09

3 経済・産業分野

項目	今回(A)		前回(B)		差(A-B)	
	満足度	重要度	満足度	重要度	満足度	重要度
農林業	⇒ 3.05	⇒ 3.65	⇒ 2.98	↓ 3.54	⇒ 0.07	↑ 0.11
企業誘致	↓ 2.76	⇒ 3.56	⇒ 2.72	⇒ 3.72	↓ 0.04	⇒ -0.16
産業振興・雇用就労	↓ 2.95	⇒ 3.64	↓ 2.64	⇒ 3.73	⇒ 0.31	⇒ -0.09
観光	↑ 3.58	↑ 3.88	↓ 2.58	⇒ 3.66	↑ 1.00	↑ 0.22
商業	⇒ 3.34	↑ 3.83	↓ 2.23	↑ 3.98	↑ 1.11	⇒ -0.15
平均	⇒ 3.14	⇒ 3.71	↓ 2.63	⇒ 3.73	⇒ 0.51	⇒ -0.01

4 健康・福祉分野

項目	今回(A)		前回(B)		差(A-B)	
	満足度	重要度	満足度	重要度	満足度	重要度
保健	↑ 3.58	↑ 4.06	↑ 3.69	↑ 4.07	↓ -0.11	⇒ -0.01
医療	↓ 2.74	↑ 4.11	⇒ 2.82	↑ 4.26	↓ -0.08	⇒ -0.15
地域福祉	⇒ 3.25	⇒ 3.70	↑ 3.25	⇒ 3.81	↓ 0.00	⇒ -0.11
しょうがい福祉	⇒ 3.15	⇒ 3.67	⇒ 3.13	⇒ 3.78	↓ 0.02	⇒ -0.11
高齢者福祉	⇒ 3.26	↑ 3.83	⇒ 3.13	↑ 4.00	⇒ 0.13	⇒ -0.17
社会保障	⇒ 3.24	↑ 3.86	⇒ 3.12	↑ 4.00	⇒ 0.12	⇒ -0.14
平均	⇒ 3.20	↑ 3.87	⇒ 3.19	↑ 3.99	↓ 0.01	⇒ -0.12

5 生活環境・生活基盤分野

項目	今回(A)		前回(B)		差(A-B)	
	満足度	重要度	満足度	重要度	満足度	重要度
環境・景観保全	↓ 3.04	⇒ 3.80	↑ 3.52	↑ 3.97	↓ -0.48	⇒ -0.17
循環型社会	⇒ 3.09	⇒ 3.61	⇒ 2.77	⇒ 3.65	⇒ 0.32	⇒ -0.04
土地利用	↓ 2.95	↓ 3.34	↑ 3.21	⇒ 3.87	↓ -0.26	↓ -0.53
生活インフラ	⇒ 3.05	↑ 4.09	↑ 3.51	⇒ 3.76	↓ -0.46	↑ 0.33
住環境整備	↓ 2.78	⇒ 3.75	⇒ 3.08	↓ 3.56	↓ -0.30	↑ 0.19
移住・定住対策	⇒ 3.12	⇒ 3.53	—	—	#VALUE!	#VALUE!
地域公共交通	↓ 2.90	↑ 4.00	↓ 2.46	↑ 4.13	⇒ 0.44	⇒ -0.13
消防防災・交通安全・消費生活	⇒ 3.23	⇒ 3.68	↑ 3.43	↑ 4.05	↓ -0.20	↓ -0.37
平均	↓ 3.02	⇒ 3.72	⇒ 3.14	⇒ 3.86	↓ -0.12	⇒ -0.13

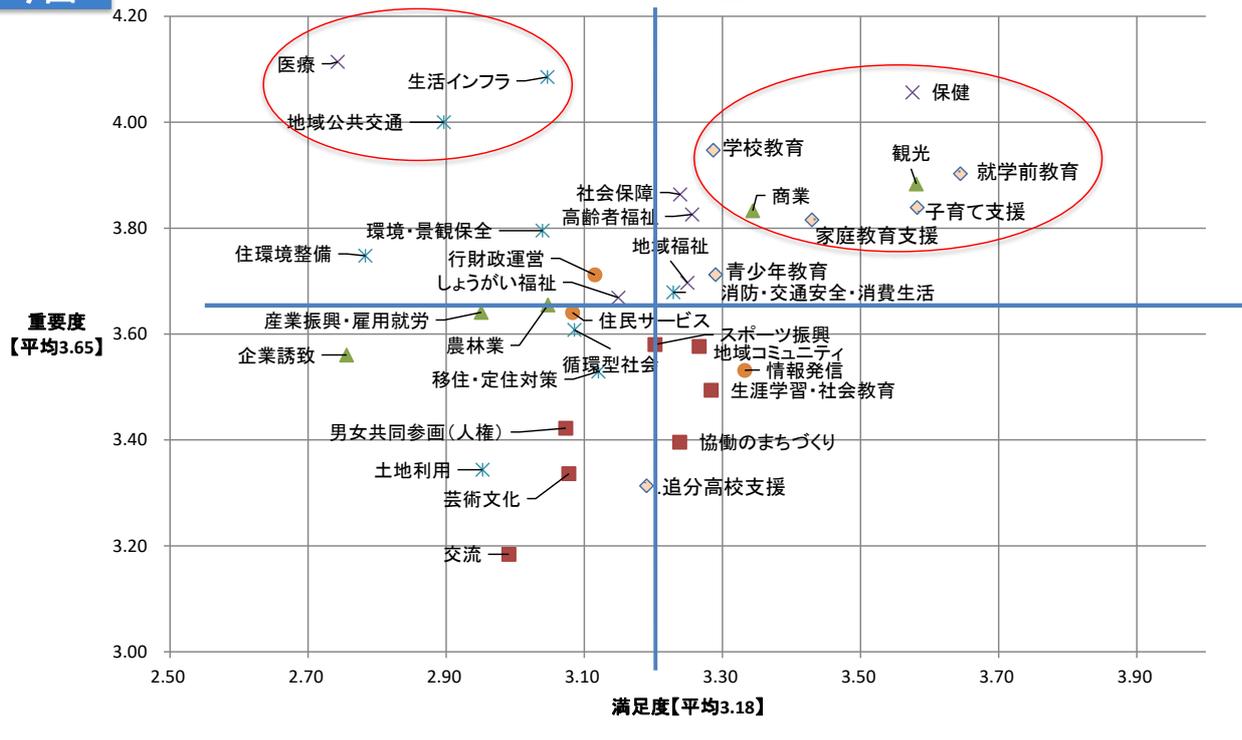
6 行財政運営分野

項目	今回(A)		前回(B)		差(A-B)	
	満足度	重要度	満足度	重要度	満足度	重要度
情報発信	⇒ 3.33	⇒ 3.53	—	—	#VALUE!	#VALUE!
住民サービス	⇒ 3.08	⇒ 3.64	⇒ 3.19	↓ 3.46	↓ -0.11	↑ 0.18
行財政運営	⇒ 3.12	⇒ 3.71	⇒ 2.98	⇒ 3.79	⇒ 0.14	⇒ -0.08
平均	⇒ 3.18	⇒ 3.63	⇒ 3.09	↓ 3.63	⇒ 0.09	⇒ 0.00

全体平均	⇒ 3.18	⇒ 3.65	⇒ 3.07	⇒ 3.71	⇒ 0.11	⇒ -0.06
------	--------	--------	--------	--------	--------	---------

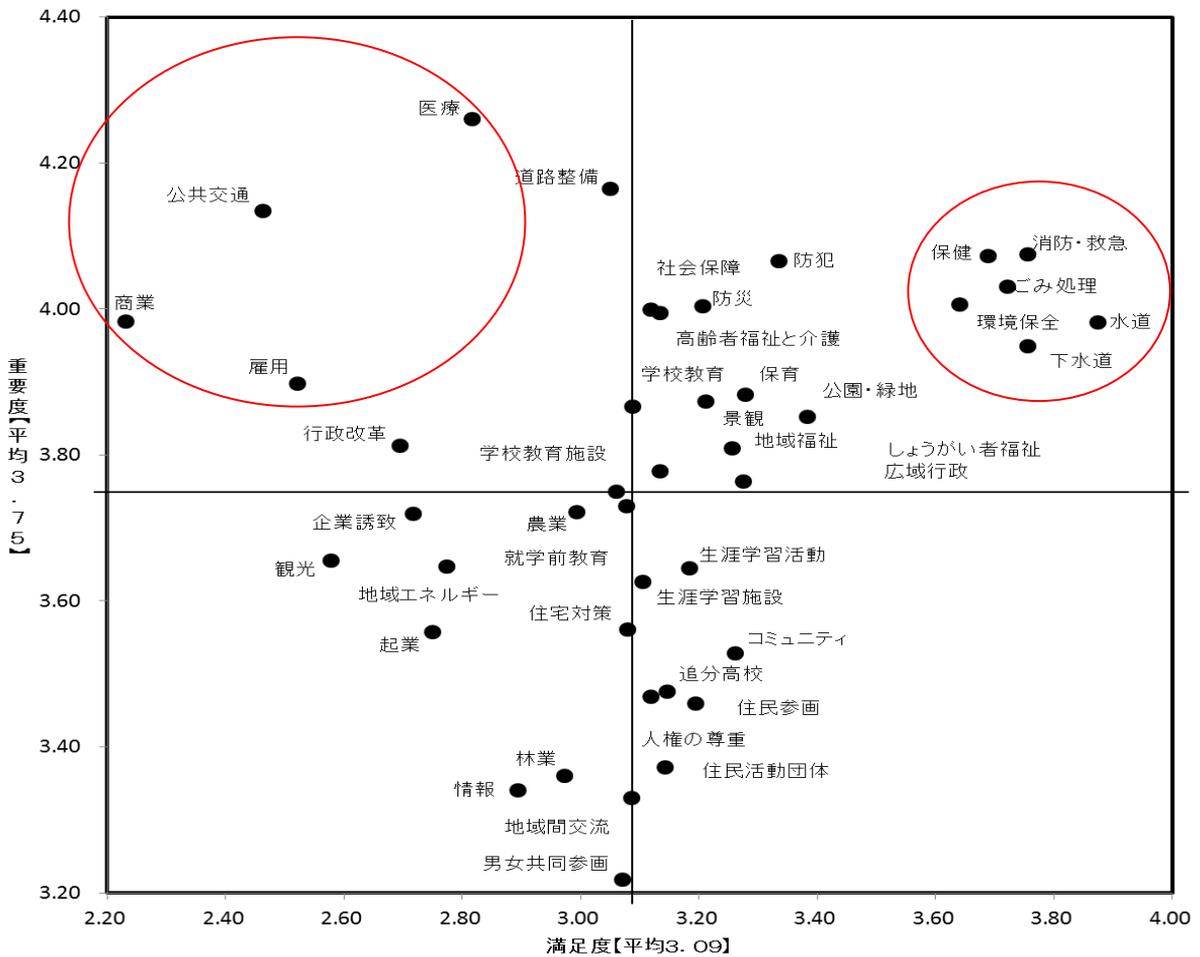
今回

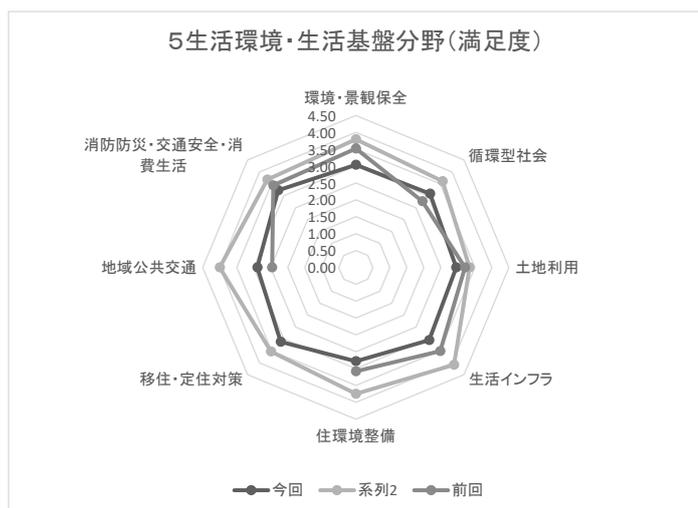
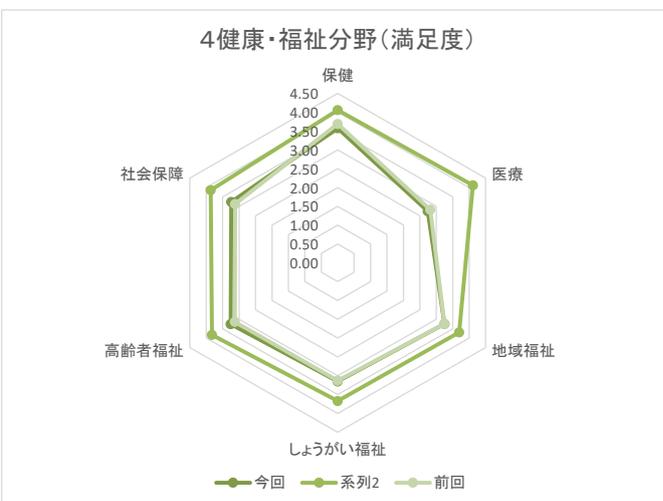
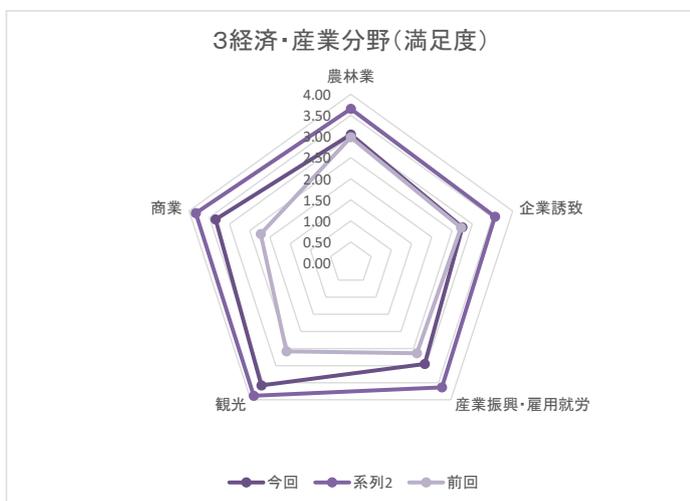
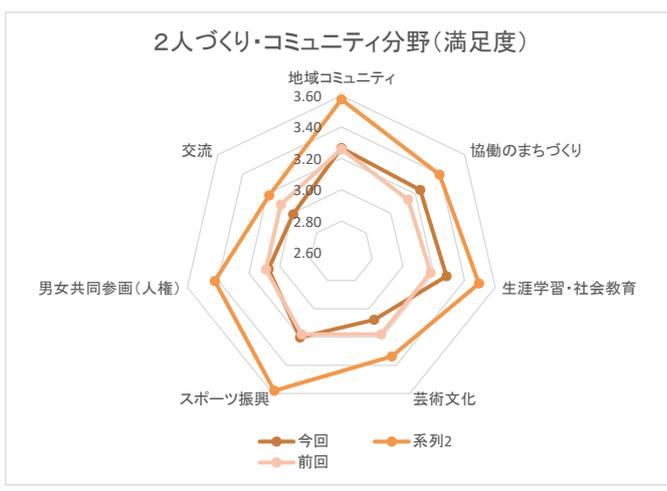
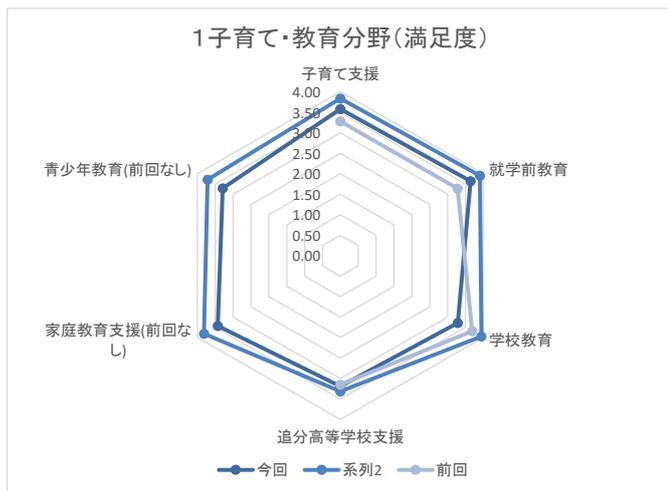
政策満足度と将来重要度_プロット図



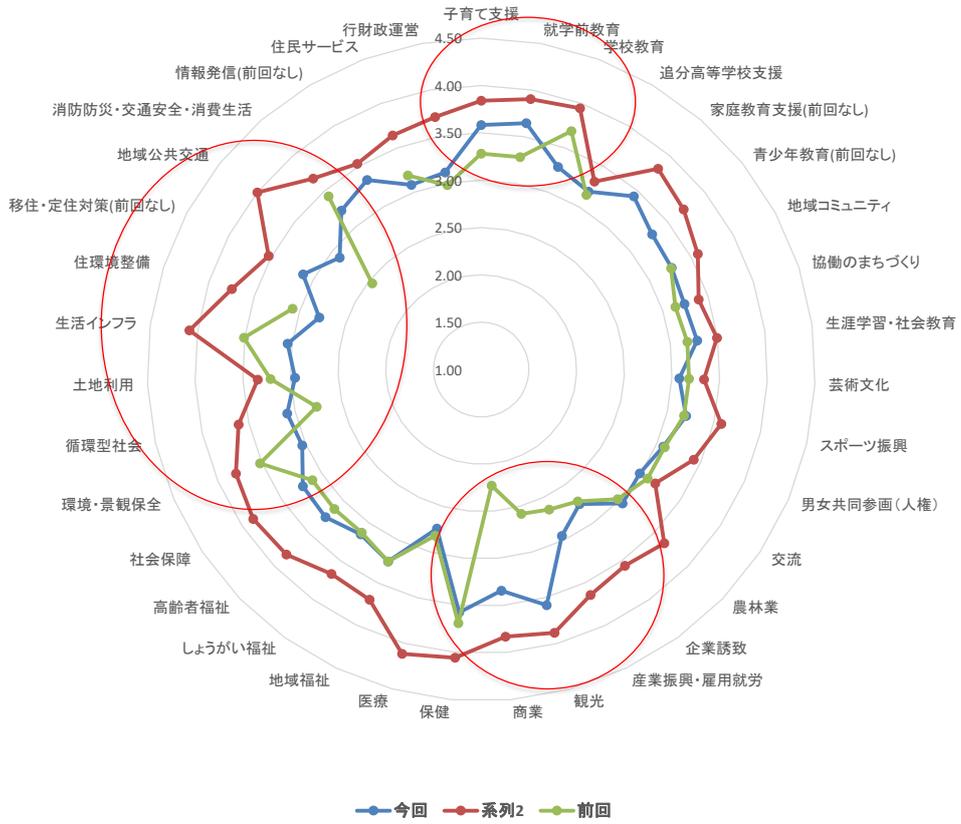
前回

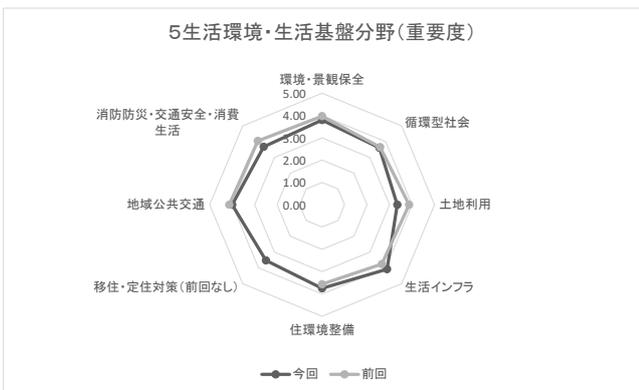
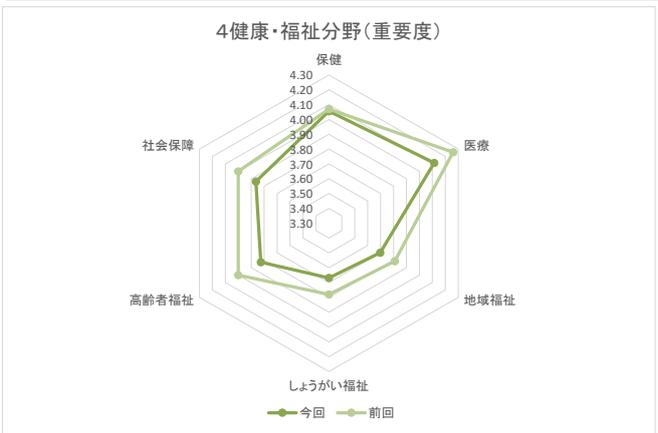
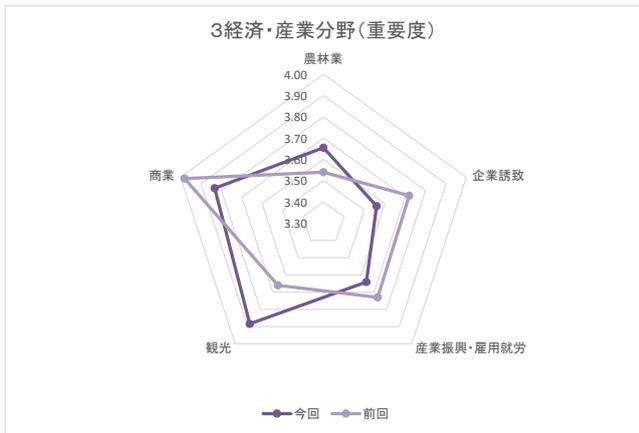
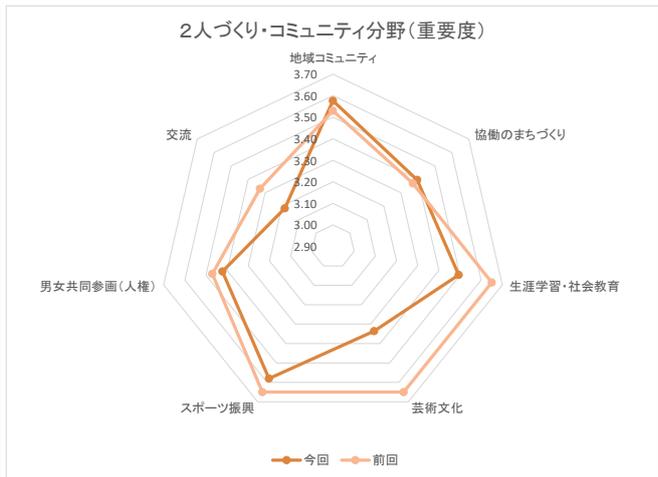
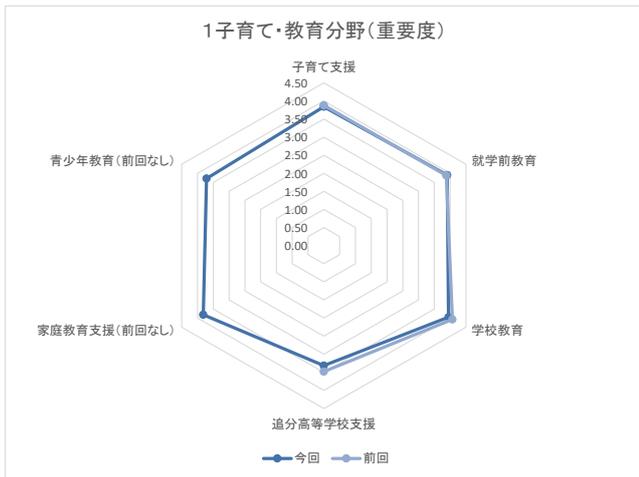
政策満足度と将来重要度 (全年齢合計プロット図)



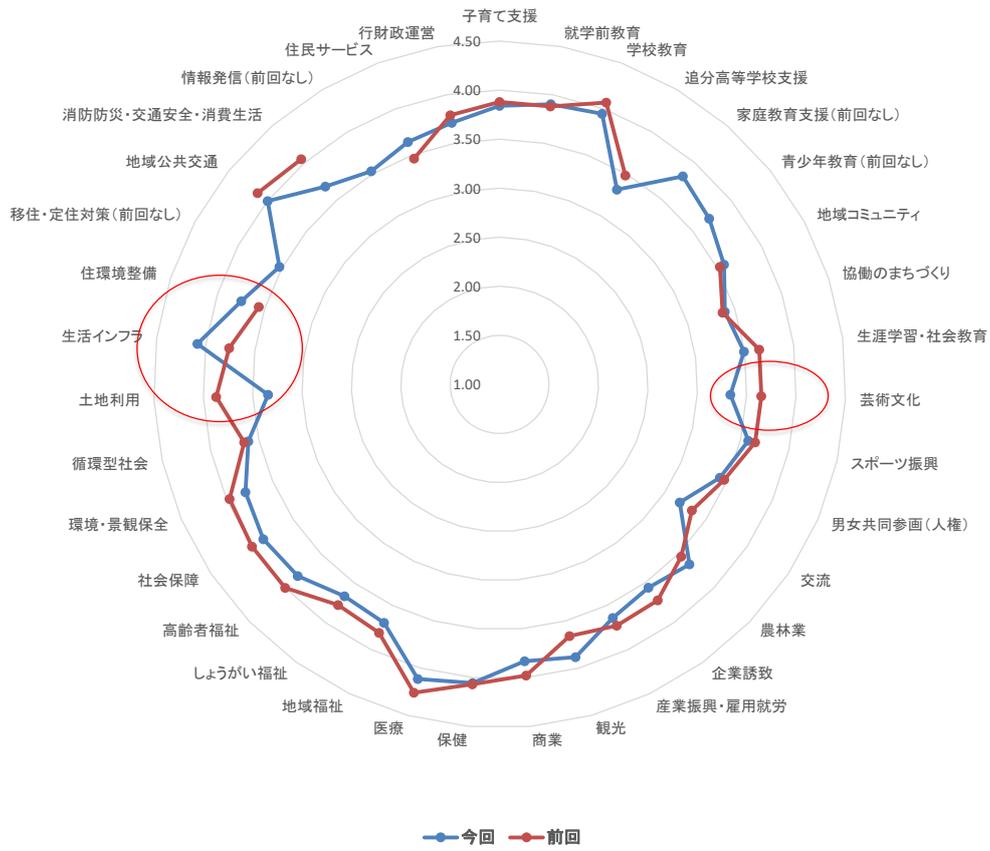


満足度:比較表



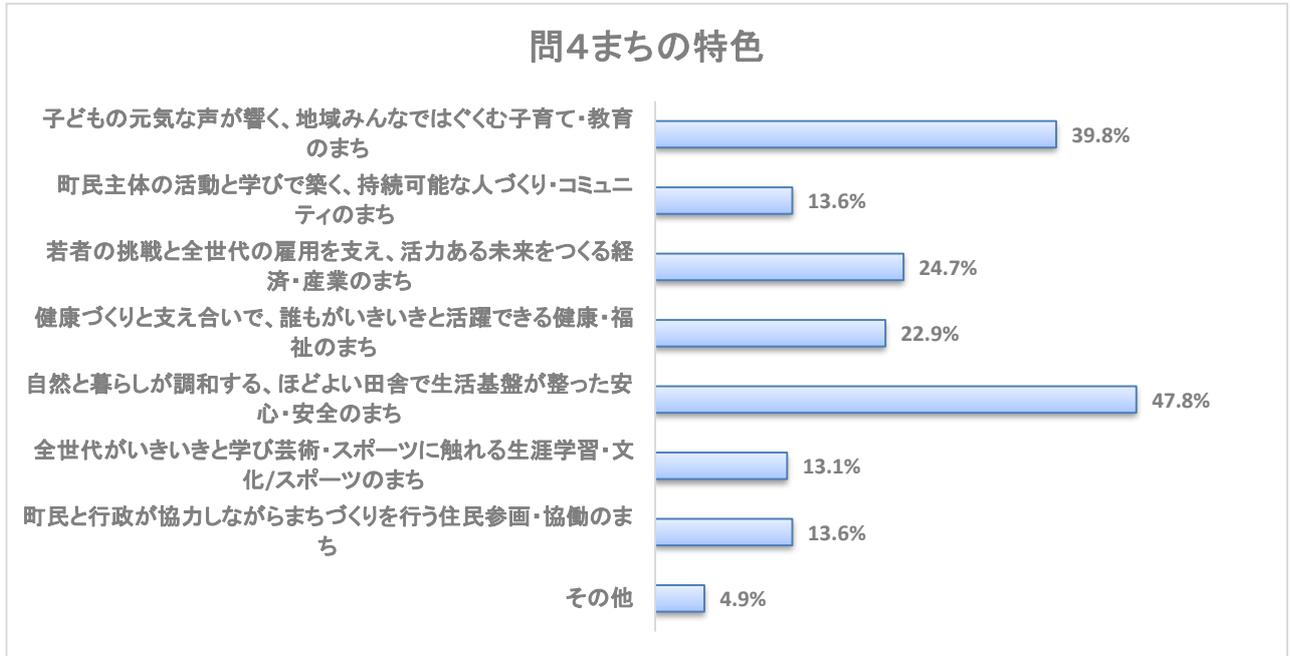


重要度:比較表



問4

		件数	割合
1	子どもの元気な声が響く、地域みんなではぐむ子育て・教育のまち	155人	39.8%
2	町民主体の活動と学びで築く、持続可能な人づくり・コミュニティのまち	53人	13.6%
3	若者の挑戦と全世代の雇用を支え、活力ある未来をつくる経済・産業のまち	96人	24.7%
4	健康づくりと支え合いで、誰もがいきいきと活躍できる健康・福祉のまち	89人	22.9%
5	自然と暮らしが調和する、ほどよい田舎で生活基盤が整った安心・安全のまち	186人	47.8%
6	全世代がいきいきと学び芸術・スポーツに触れる生涯学習・文化/スポーツのまち	51人	13.1%
7	町民と行政が協力しながらまちづくりを行う住民参画・協働のまち	53人	13.6%
8	その他	19人	4.9%
	合計	702人	180.5%



問4.その他のコメント内容

1	高齢化の進む中病院通い、日常の買い物に行きたくなる交通事情を良くして欲しい
2	自治体、自治会に調和すること一つもない。
3	食とエネルギーを地域で循環することで環境にやさしいまち かつ 強いまち。オーガニックビレッジの取扱を広める。
4	やっぱりここが良い！！と思う町
5	スーパーが有るといいですね
6	田舎特有の無駄な地域コミュニティ無くし、誰でも気楽に住むことができ、最低限の行政サービスの整った、自分の住環境は自分で整える自立した町民が集まるまち
7	どれも当てはまりません
8	千歳市内へのアクセスが便利なベッドタウンの街
9	車道、歩道が安全な町
10	建物商業施設にあふれた町
11	自然と歴史を楽しめるまち

町民まちづくりアンケート（自由記載欄）ご意見__まとめ

問5.自由記載欄いただいたご意見について、カテゴリ別に整理してまとめました。

まちづくり全般

政策的提案

全般的取り組みの方向性

- 移住者・新規事業だけでなく、既存住民にも実感できる取組の充実と見える化
- 一部ターゲットに偏った施策ではなく、課題解決につながる設計かどうかを丁寧に検討する。
- 移住 PR よりも、まずは今住む町民の満足度を高めるという考え方
- 人口減少を前提に、これまでと異なるやり方へ転換していく姿勢

人口・産業・定住の方向性

- 立地の強み（千歳・苫小牧・札幌への近さ）を活かした企業誘致・人口増、産業振興
- 外部環境の変化（例：半導体関連の動き等）を、地域の機会として活用する視点
- 移住 PR の強化と、移住→定住→永住につながる産業・交通・生活基盤の整備

暮らしの安心基盤（医療・福祉・交通など）

- 医療・金融・交通など、安心して暮らすための基盤サービスの充実
- 医療・福祉の方向性を分かりやすく示し、全世代が住み続けたいと思える体制へ。
- 健康で長生きするための介護予防を充実し、教育と併せて“まちの両輪”として位置づける視点
- 若い世代が住みやすく、生活しやすい環境整備を進める。

住民参画・共創とつながり（コミュニティ）

- 住民参画は“意見収集→行政が計画提示”に留まらず、住民の企画や主体的な取組を行政が支える形も重ねる。
- 小さなイベントや交流の場を各地域で継続し、世代を超えて集まりやすい文化として育てる。
- 自治会等を核に、移住者も含めた交流・連携を深め、住み良い地域づくり
- コロナ禍以降のコミュニケーションの希薄化を踏まえ、つながりの回復を意識する。
- 住民同士の関係は“遠すぎず近すぎず”の程よい距離感を大切にする。
- 小さな町だからこそ、得意を持ち寄って助け合える関係性を保つ。

多様性・共生（世代・国籍など）

- 高齢者への思いやりや配慮が行き届く環境づくり
- 外国人住民の増加を見据えた生活支援と、暮らしのルール・受入側の役割の整理
- 若い世代への投資と、年配世代の協力を得た世代間交流の拡大

地域間バランスと機能配置

- 地域間（早来・追分・遠浅・安平）のバランスを意識した町づくり
→ 他方、機能配置（集約／分散）については意見が分かれており、将来の持続性も踏まえた検討の必要性
- 施設の統廃合・再配置を、将来負担も見据えて進める。

まちの将来像

- 教育を軸にしつつも、働く世代・中高年層にとっての魅力（暮らし・仕事・楽しみ）も広げる視点
→ 子育て・教育を柱にした取組を継続しつつ、時代に合わせてアップデート
- “明るい未来が見える”政策の打ち出しと、町民が前向きになれるストーリーづくり
- 若者の出会いの機会をつくる視点
- 新しい技術（例：自動運転等）の導入可能性も含め、挑戦を後押しする姿勢
- 新しいことを始める人への応援・支援を強める。
- 未来の子どもたちを起点に、何を／しないを町民自身も議論しながら未来を描く町でありたい。

個別事業提案

町民サービス

- 町民向けの割引・優待など、町民サービスの充実

広報・シティプロモーション

- 町のキャラクター（あびたまなっちゃん）の公式化や、より定着するためのブラッシュアップ
- 若い世代の活動や取組の成果が、町民に届く形で伝わる工夫（発信・可視化）

若者の居場所・楽しみ

- 若者向けの娯楽・居場所となる施設や場の充実

人材・担い手の確保

- 地域おこし協力隊の雇用に関し、地元人材の雇用機会との関係を意識した運用
→ 隊員の多さとそれに付随する町民の雇用への懸念

子育て・教育

政策的提案

成果の見える化

- 教育投資の成果（子どもの育ち、町の豊かさの実感）が見えるよう、丁寧な振り返りと発信

学び・活動・進路の選択肢

- 子どもの成長段階が進むほど選択肢が狭まらないよう、学び・活動・進路の幅を確保する視点

安心と公平性を支える支援体制

- 不登校・いじめ等への対応は、当事者の安心と公平性が担保される仕組みづくりを重視する。

教育に対する考え方

- 子どもだけでなく全世代の学びの機会を守り、暮らし・経済・基盤を支えるまちへ。
- 元気な高齢者の知恵や得意を、子どもや地域に活かせる関係づくり

個別事業提案

不登校・いじめ・安全

- 不登校の子どもへの支援拡充、フリースクール等の選択肢の充実
- 学校の不審者対策の強化
- いじめ事案の調査に第三者性を持たせる仕組み

子育て支援・保育

- 保護者への子育て支援金等の支援拡充
- 子育て支援センターの支援員増員
- 0～2歳児の保育料無償化

給食・食育

- 給食費の無償化
- 給食メニューの充実（地元食材・有機食材の活用等）
- 学校給食の提供を町民にも広げる仕組み（提供の場づくり、配食等）

学校環境・施設（学び・運動）

- こども園・学校へのエアコン整備
- 教室不足への対応
- 追分・早来間の教育設備格差の是正（例：プール等）
- 体育施設の環境改善
- トレーニングルームのシルバー割引導入

- 追分地区で気軽に利用できるジム機能の整備
- 旧早来中学校跡地の状況説明と有効活用

文化・学びの場・進路

- 郷土資料館を魅力ある施設へ改善
- 文化・芸術に触れる機会の拡充（演劇、絵画展等）
- 追分高校の存続に向けた専門性の高い学科・資格取得機会の導入
- 図書館の IT 関連書籍の充実

居場所・交流・イベント

- 町外からも来訪が期待できる公園や雨天型遊戯施設の検討
- 子育て世帯向けイベントの継続・拡充
- 追分児童館の機能強化
 - 中学生くらいまでの居場所としての本来機能へ

施設の案内・運用

- 町民センター等の利用方法が分かりやすくなる案内・運用
 - 特にお年寄りへの配慮

商工・観光

政策的提案

- 事業者や商工団体が活用しやすい支援制度（イベント支援等）へ、申請ハードルの低減や設計の工夫
- 商店が閉店する前に、早めに兆しを捉えて支える仕組みづくり
- あびらポイントの位置づけや効果を踏まえた改善
- 道の駅を“対外向け”だけでなく、町民にとっても身近な拠点として育てる視点
- 観光は季節偏重を避け、通年で体験・滞在できる魅力をつくり、地域経済の潤いにつなげる。
 - 菜の花以外の資源の発掘への期待

個別事業提案

- 地域イベントへの助成（条件設定を含む）や、発起人にメリットを付与する仕組み
- あびらポイントの付与率の見直し
- あびらポイントを利用できる店舗・場所の拡大（例：サツドラ、ニコット等）
- 道の駅での高齢者向け・町民還元イベントの開催
- 道の駅イベントへの出店機会を増やし、団体の活動資金確保につなげる。
- 宿泊施設の拡充
- 小規模スーパー等、日常の買い物環境のさらなる充実
- 安平山スキー場の有効活用（合宿、モータースポーツ、施設誘致等の検討）

移住・定住

政策的提案

- 宅地の確保や住宅支援の充実（移住希望者が住まいを確保しやすい環境づくり）
- 移住者だけでなく、既存住民も住まいを確保しやすい支援の検討

個別事業提案

- 住宅建設時の記念品（例：シバザクラの提供）など、安平町らしい後押し
- 単身者向けの安価で質の良い賃貸住宅の整備

公共交通

政策的提案

- 高齢化や免許返納の増加を踏まえた移動手段の確保（安心して暮らせる交通網）
- 現在の支援策（タクシー等）の継続・改善

個別事業提案

- JRの利便性向上（列車本数の増便等）
- 鶴の湯への移動手段の確保
- 札幌・千歳・苫小牧方面へのバス運行等、受診・通院の足の確保

道路/防犯・防災/景観/公園/環境衛生

政策的提案

- 静かで緑の多い自然環境を守り、景観との調和を重視する。
- 太陽光発電施設等の増加に伴う景観・環境面の懸念への対応
- 森林伐採等の環境負荷が大きい形でのエネルギー推進には慎重であるべきという視点
- 災害時に確実に情報が届く防災体制の強化（情報伝達の実効性）

個別事業提案

- 街灯の点検・修繕
- 道路の補修（特に劣化が著しい区間の早期対応）
- 歩きたくなる町並みづくり（子どもや町民の作品・写真展示等）
- 身近な公園の魅力向上と、防犯上の見通し改善
- 廃屋・放置地の整理、標識・看板の更新など景観整備
- 安平チャンネルや防災アナウンスの受信環境改善、戸別受信機等の検討
- 一人暮らし向け小容量ごみ袋の販売

福祉・医療

政策的提案

- 町内で安心して受診できる医療提供体制の充実（急病時の安心）
- 子育て期の医療体制（小児）や出産体制（産科）の確保
- 買い物・移動・除雪など、高齢になっても住み続けられる生活支援の充実
- 健康寿命の延伸に資する取組（健診等）の継続・強化

個別事業提案

- 入院設備のある病院・医療機関の確保
- 小児科の体制整備
- 町内で出産できる体制の整備
- 運動教室等の定期プログラム（ポイント付与等、継続しやすい工夫）
- 買い物支援、同行支援、冬の除雪支援の拡充

水道

政策的提案

- 老朽化による破損等を見据えた定期的/計画的な取り組み

個別事業提案

- 水道料金の負担軽減（減額等）
- 老朽化による破損等を見据え、緊急時対応手順の定期的な見直し（手順書のアップデート）

農業

政策的提案

- 有機農業の推進と、既存の農業への目配り・支援の両立

個別事業提案

- 安平産の米・野菜等のPR強化
- 有機農業以外の農業への配慮
 - 有機農業だけが目立っているという懸念

行財政/地方自治

政策的提案

- 町議会議員の担い手確保の観点から、報酬水準や環境の見直し
- 自治会の高齢化・機能低下を踏まえ、統合や活動の再設計、町の関与のあり方の検討
- 空港・港への近さ等を踏まえた外貨獲得の視点と、税金を増やす道筋を町民参画で考える場づくり
- 非合理的な慣習に左右されず、公平に行政サービスを受けられる状態を目指す。
- 行政は必要最低限を担い、民間が成り立つ領域は民間の力も活かすという考え方
- 行政が“住民協力”に過度に依存しない仕組みづくり

その他（アンケート手法等へのご指摘）

個別事業提案

- アンケート設計の工夫（困りごと・心配ごとを問うなど、書きやすい問いにする。）
- 将来像（人口規模、まちの姿）の見通しを分かりやすく示す。

◇教育まちづくりフォーラム 2025（100 人会議） __ 全体概要

2025 年 8 月 18-19 日に開催された「教育まちづくりフォーラム」における最終プログラム「100 人会議」の内容について、まずは当日参加者と共有したスライドや現地で行われたグラフィックレコーディングをもとに、活動の概要および共有された主な視点を整理する。

1. 事業の目的・位置付け

本フォーラムは、教育を学校内に限定された取組として捉えるのではなく、世代を超えて地域全体で支え合い、育てあっていく営みとして教育を再定義する、「教育まちづくり」という視点に立って開催された。

特に、フォーラム最終コンテンツの「100 人会議」は、多様な立場の参加者（町内外の方が含まれる。）が対話を通じて意見や考えを共有し、相互理解を深める場として設定したものである。

2. 実施内容（教育まちづくりフォーラムの概要）

本フォーラムにおける各種プログラムでは、登壇者それぞれが教育や地域との関わりについてパネルディスカッションが展開された。

特定の結論や合意形成を目的とするのではなく、登壇者の考えを可視化し、教育を軸としたまちづくりの関係性を多角的に捉えることが重視された。

【主な観点】

（1）教育の担い手の多様化

教育は学校や教員のみが担うものではなく、子ども、保護者、地域住民、事業者、行政など、多様な主体が関わることで成り立つという認識が共有された。

（2）学びと地域生活の連続性

農業、仕事、文化、暮らしといった地域の日常が学びの場となり得ることが示され、学びが生活や地域活動と地続きであるという視点が強調されていた。

（3）対話と関係性の重視

意見の集約や評価よりも、対話そのものを通じて関係性を築くことが重要であるという姿勢が全体に表れた。

（4）行政の役割に関する示唆

行政がまちづくりの主体として前面に立つのではなく、多様な主体が関わりやすい環境や対話の場を整える役割を担う存在として描かれた。

◇100 人会議 ワークショップ_結果報告

2025 年 8 月 19 日開催「あびら教育まちづくりフォーラム 2025」内の「100 人会議」で実施されたワークショップに関し、当日編成された 15 グループのアウトプットを下記に整理する。

1. ワークショップの概要

本ワークショップは、「しあわせってどんなこと？」という問いを起点に、参加者が「10 年後のしあわせ」を想像し、共有することを目的として実施された。4～名のグループに分かれ、「幸せの 4 象限ワークシート」を用いてブレストした。



2. ワークショップ結果（4 象限別）

15 グループのアウトプットをまとめると、次のような結果／傾向が見られた。

① 内×静（自己・個人／受動・安定）

- 心身ともに健康であること
- 安心して暮らせる生活基盤があること
- 経済的不安が少ないこと
- 自分らしく、無理をせずに過ごしている状態
- 家族と穏やかに過ごせる日常
- 孤立せず、見守られていると感じられること
- 生活リズムが整い、心に余裕があること
- 年齢や立場に関わらず安心できる居場所があること

【特徴】

「頑張らなくても守られている」「不安が小さい」状態を、10年後のしあわせの土台として捉える意見が多い。

② 内×動（自己・個人／能動・変化）

- 自分のやりたいことに挑戦できている
- 学び続けられる環境がある
- 仕事や活動にやりがいを感じられる
- 新しいことにチャレンジできる余白がある
- 自分の強みや個性を活かしている
- 年齢に関係なく成長を実感できる
- 好きなこと・得意なことに時間を使っている
- 将来に希望を持っている

【特徴】

「変化できること」「選択できること」そのものが、しあわせの条件として語られている。

③ 外×静（他者・社会／受動・安定）

- 地域に信頼関係がある
- 困ったときに助け合える人がいる
- 子どもや高齢者が安心して暮らせるまち
- 誰一人取り残されない社会
- 治安が良く、災害への備えがある
- 行政や制度が信頼できる
- 子育てや介護を社会で支えている
- 安心して住み続けられる地域であること

【特徴】

「個人の努力に依存しない安心」が、地域・社会側の条件として挙げられている。

④ 外×動（他者・社会／能動・変化）

- 地域や社会の役に立っている実感
- 仕事や活動を通じた社会貢献
- 子どもを育て、次世代につなぐこと
- 地域活動やまちづくりに関われる
- 多様な人と協働できる
- 立場を超えて対話ができる
- 地域に仕事や挑戦の場がある
- 「自分もまちの一員だ」と感じられること

【特徴】

「誰かのために動くこと」「関係の中で役割を持つこと」が、しあわせとして位置付けられている。

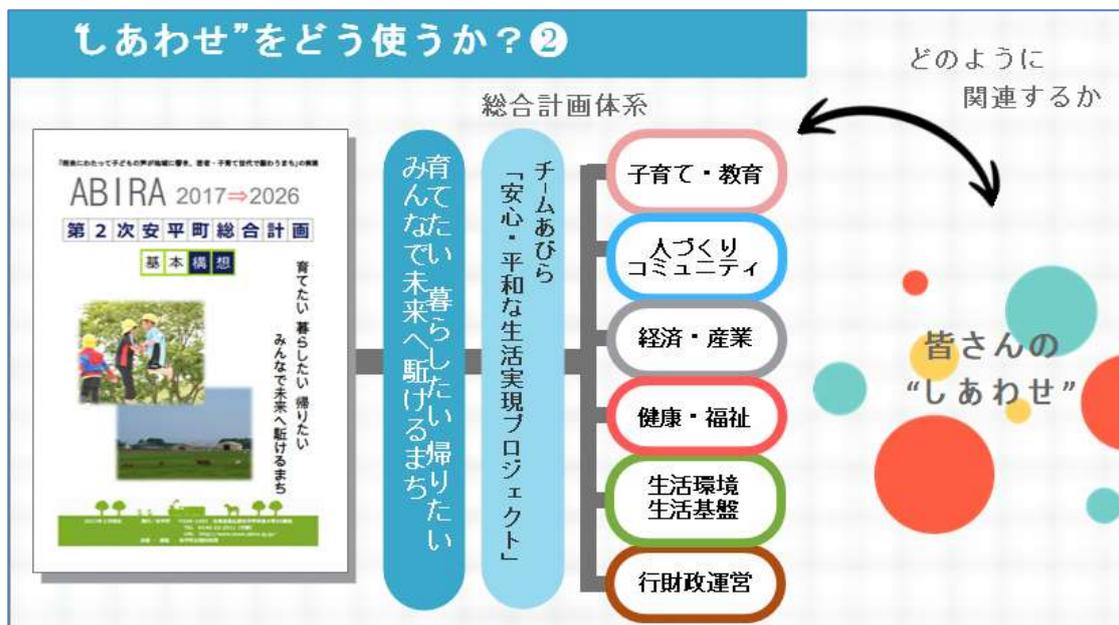
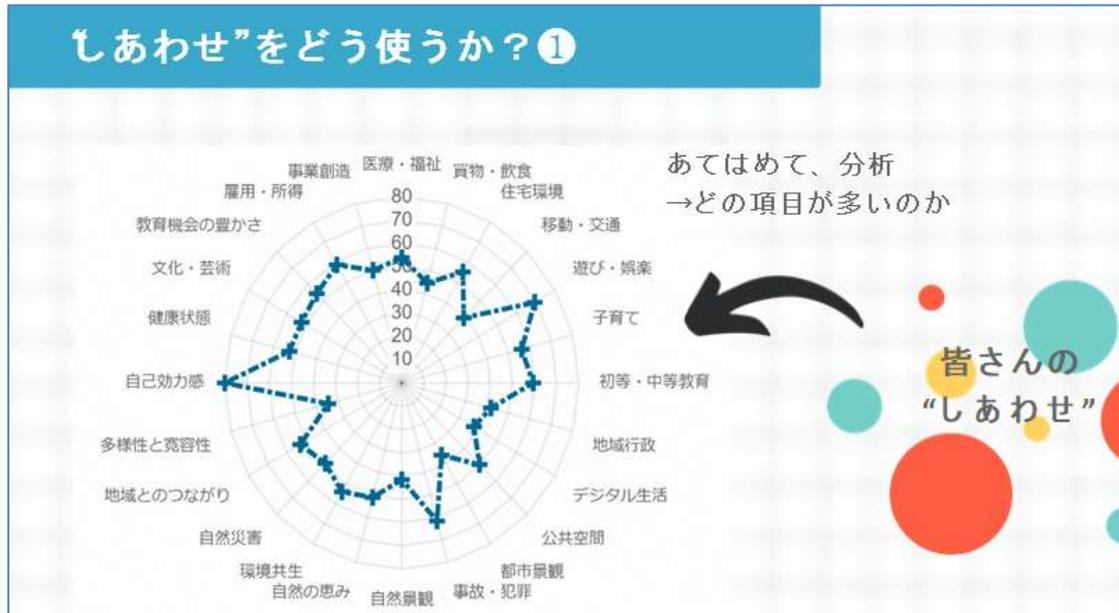
3. ワークショップ結果のまとめ

15 グループの意見は全体として、『個人の安心・成長』と、『社会の支え・関係性』の双方が成立している状態が、10年後のしあわせとして描かれていた。

この結果を踏まえて公共（行政）としては、多様な価値観を持つ人々が、様々な選択ができるよう土台作りを進めること／強化することが、ウェルビーイングに立脚したまちづくりの方向性が示唆されたと受け止めている。

◇100 人会議 ワークショップ結果 「しあわせ」 意見の分析①__ Well-being 指標への分類整理

100 人会議ワークショップでは、「10 年後のしあわせ」に関する意見出してもら
うに留め、今後、庁内において次の 2 つの作業をするための材料として受け止める
趣旨であることを参加者に対して伝え、会議を結んだ。



1. 「“しあわせ”をどう使うか？①」への分類試行

そこでまずは、先述の「ワークショップ結果（4 象限別）」の①～④で出された
（まとめられた）意見について、「“しあわせ”をどう使うか？①」に分類を試み
た。 ※1 意見=1 カテゴリで分類を試行している。

①-④区分	WS まとめ意見	well-being カテゴリ
① 内×静	心身ともに健康であること	医療・福祉
	安心して暮らせる生活基盤があること	住環境
	経済的不安が少ないこと	雇用・所得
	自分らしく、無理をせずに過ごせている状態	医療・福祉
	家族と穏やかに過ごせる日常	子育て
	孤立せず、見守られていると感じられること	安全・安心
	生活リズムが整い、心に余裕があること	医療・福祉
	年齢や立場に関わらず安心できる居場所があること	地域とのつながり
② 内×動	自分のやりたいことに挑戦できている	自己効力感
	学び続けられる環境がある	教育機会の豊かさ
	仕事や活動にやりがいを感じられる	自己効力感
	新しいことにチャレンジできる余白がある	自己効力感
	自分の強みや個性を活かしている	自己効力感
	年齢に関係なく成長を実感できる	教育機会の豊かさ
	好きなこと・得意なことに時間を使えている	文化・余暇
	将来に希望を持っている	自己効力感
③ 外×静	地域に信頼関係がある	地域とのつながり
	困ったときに助け合える人がいる	地域とのつながり
	子どもや高齢者が安心して暮らせるまち	医療・福祉
	誰一人取り残されない社会	医療・福祉
	治安が良く、災害への備えがある	安全・安心
	行政や制度が信頼できる	地域行政
	子育てや介護を社会で支えている	医療・福祉
	安心して住み続けられる地域であること	住環境
④ 外×動	地域や社会の役に立っている実感	地域とのつながり
	仕事や活動を通じた社会貢献	地域とのつながり
	子どもを育て、次世代につなぐこと	子育て
	地域活動やまちづくりに関われる	地域とのつながり
	多様な人と協働できる	多様性と寛容性
	立場を超えて対話ができる	多様性と寛容性
	地域に仕事や挑戦の場がある	雇用・所得
	「自分もまちの一員だ」と感じられること	地域とのつながり

2. 分類カテゴリ別 件数一覧

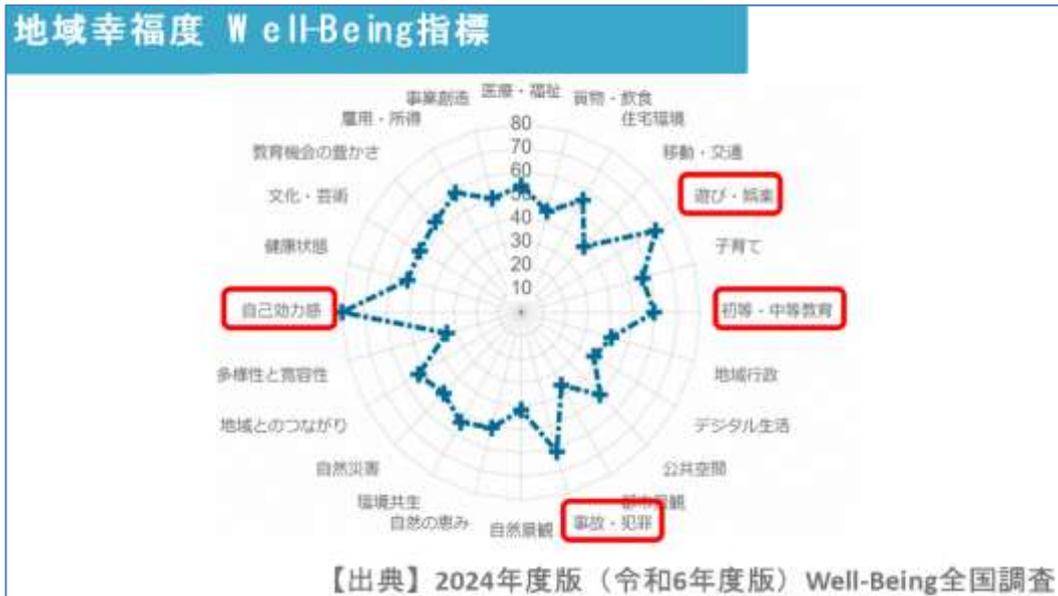
1. で試行した分類の分布は、次の通りである。

分類カテゴリ	件数	分類カテゴリ	件数
医療・福祉	6	教育機会の豊かさ	8
住環境	2	文化・余暇	1
雇用・所得	2	安全・安心	2
子育て	2	自己効力感	5
地域行政	1		

3. 整理上の留意点 ①関係

本件数は、ワークショップで出された各意見について、最も関連性が高いと考えられる分類カテゴリを1つ割り当てた結果である。そのため、実際には複数の分野に関係する意見も含まれているが、本整理ではレーダーチャート等による可視化を想定し、主分類のみを採用している。

また、以下は2024・2025年度に実施された「well-being 全国調査」における安平町の結果である。



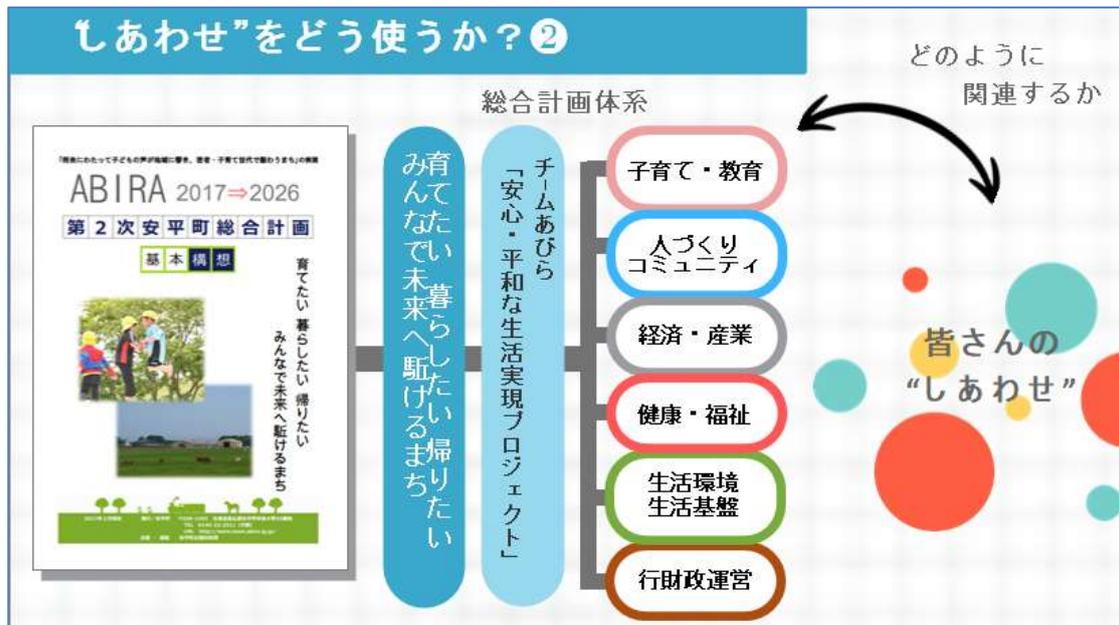
今回の4象限でのワークは換言すれば、「しあわせとは、だれのものか」【主体】と「しあわせとは、どんな状態か」【状態】を調査したということができると考えられる。よって、これを well-being 指標に置き換えた際には、「事業創造」「初等・中等教育」「移動・交通」「デジタル生活」「自然災害」「自然の恵み」など、

「しあわせのために、人々はどんな環境に身を置くか」という【条件】面が意見されにくいものであったのではないかと考えている。また、総合計画のとりわけ基本構想においては、「今がしあわせかどうか」とうことを踏まえながらも、「10年後どういったしあわせの状態でありたいか」といった“目指す姿／将来像”を示すものであるという性質に鑑みれば、well-being 指標はあくまで“現在のしあわせ満足度”を測定するものであることに留意する必要がある。さらに付け加えれば、意見の分類は、担当者の主観によるところである（絶対的判断基準がない）点も考慮しなければならない。

◇100 人会議 ワークショップ結果「しあわせ」意見の分析②__第 2 次総合計画政策分野への分類整理

1. 「“しあわせ”をどう使うか?②」への分類試行

次に、共有された「10年後のしあわせ」に関する意見と、「“しあわせ”をどう使うか?②」で示した、第2次総合計画における6つの政策分野との関係について整理・分析を行う。



2. 整理の目的

本整理は、行政が実施する各分野の施策が、町民一人ひとりの「しあわせ」の向上に対して、どのような役割（＝土台づくり）を果たしているのかを明確にすることを目的とする。

3. 前提となる考え方

100 人会議で描かれた「しあわせ」は、医療・福祉や教育といった単一の行政分野に直接対応するものではなく、複数の分野が重なり合うことで生まれる状態や実感として捉えられている。事実、① 1. の分類表へはいくつもの well-being 指標カテゴリにまたがると解釈できるものが多数見受けられる。

そのため、本整理では「しあわせを分野に分類する」のではなく、「行政分野が、どのしあわせの土台を支えているのか」という視点で関係性を試行する。

※ 1 意見 = 1 分野で分類を施行している。

4. 現行総合計画政策6分野と、支えている「しあわせ」の関係

政策分野	WS まとめ意見
子育て・教育	<p>学び続けられる環境がある 年齢に関係なく成長を実感できる 将来に希望を持っている 自分のやりたいことに挑戦できる 新しいことにチャレンジできる余白がある 好きなこと・得意なことに時間を使っている 子どもを育て、次世代につなぐこと</p>
人づくり・コミュニティ	<p>孤立せず、見守られていると感じられること 地域や社会の役に立っている実感 「自分もまちの一員だ」と感じられること 自分らしく、無理をせずに過ごせている状態 年齢や立場に関わらず安心できる居場所がある 困ったときに助け合える人がいる 子どもや高齢者が安心して暮らせるまち 地域活動やまちづくりに関われる 多様な人と協働できる 立場を超えて対話できる 地域に信頼関係がある</p>
経済・産業	<p>経済的不安が少ないこと 仕事や活動にやりがいを感じられる 自分の強みや個性を活かしている 仕事や活動を通じた社会貢献 地域に仕事や挑戦の場がある</p>
健康・福祉	<p>心身ともに健康であること 家族と穏やかに過ごせる日常 誰一人取り残されない社会 生活のリズムが整い、心に余裕があること 子育てや介護を社会で支えている</p>
生活環境・生活基盤	<p>安心して暮らせる生活基盤があること 安心して住み続けられる地域であること 治安が良く、災害への備えがある</p>
行財政運営	<p>行政や制度が信頼できる</p>

4-2. 現行総合計画政策6分野と、支えている「しあわせ」の関係②

4. 1意見＝1分野で作業をするとやはり well-being 指標へ分類した時と同様にいくつかの分野にまたがると解釈できるものが見受けられる。そこで、当該分野に該当となる「しあわせ意見」を制限なく分類してみることにする。

※1意見＝複数分野（最大6分野すべて）

政策分野	WS まとめ意見
子育て・教育	心身ともに健康であること 家族と穏やかに過ごせる日常 孤立せず、見守られていると感じられること 生活のリズムが整い、心に余裕があること 年齢や立場に関わらず安心できる居場所がある 自分のやりたいことに挑戦できる 学び続けられる環境がある 活動にやりがいを感じられる 新しいことにチャレンジできる余白がある 自分の強みや個性を活かしている 年齢に関係なく成長を実感できる 好きなこと・得意なことに時間を使っている 将来に希望を持っている 子どもが安心して暮らせるまち 誰一人取り残されない社会 子育てを社会で支えている 地域や社会の役に立っている実感 活動を通じた社会貢献 子どもを育て、次世代につなぐこと 地域活動やまちづくりに関われる 多様な人と協働できる 立場を超えて対話できる 地域に挑戦の場がある 「自分もまちの一員だ」と感じられること 行政や制度が信頼できる
人づくり・コミュニティ	心身ともに健康であること 安心して暮らせる生活基盤があること 自分らしく、無理をせずに過ごせている状態 家族と穏やかに過ごせる日常 孤立せず、見守られていると感じられること 生活のリズムが整い、心に余裕があること 年齢や立場に関わらず安心できる居場所がある 自分のやりたいことに挑戦できる 学び続けられる環境がある 活動にやりがいを感じられる 新しいことにチャレンジできる余白がある 自分の強みや個性を活かしている 年齢に関係なく成長を実感できる 好きなこと・得意なことに時間を使っている 将来に希望を持っている

地域に信頼関係がある
困ったときに助け合える人がいる
子どもや高齢者が安心して暮らせるまち
誰一人取り残されない社会
子育てや介護を社会で支えている
安心して住み続けられる地域であること
地域や社会の役に立っている実感
活動を通じた社会貢献
子どもを育て、次世代につなぐこと
地域活動やまちづくりに関われる
多様な人と協働できる
立場を超えて対話できる
地域に挑戦の場がある
「自分もまちの一員だ」と感じられること
行政や制度が信頼できる

経済・産業

心身ともに健康であること
安心して暮らせる生活基盤があること
経済的不安が少ないこと
自分らしく、無理をせずに過ごせている状態
家族と穏やかに過ごせる日常
生活のリズムが整い、心に余裕があること
自分のやりたいことに挑戦できる
学び続けられる環境がある
活動にやりがいを感じられる
新しいことにチャレンジできる余白がある
自分の強みや個性を活かしている
年齢に関係なく成長を実感できる
好きなこと・得意なことに時間を使っている
将来に希望を持っている
地域に信頼関係がある
困ったときに助け合える人がいる
誰一人取り残されない社会
行政や制度が信頼できる
子育てや介護を社会で支えている
安心して住み続けられる地域であること
地域や社会の役に立っている実感
仕事を通じた社会貢献
地域活動やまちづくりに関われる
多様な人と協働できる
立場を超えて対話できる
地域に挑戦の場がある
「自分もまちの一員だ」と感じられること

健康・福祉

心身ともに健康であること
安心して暮らせる生活基盤があること
経済的不安が少ないこと
自分らしく、無理をせずに過ごせている状態
家族と穏やかに過ごせる日常

孤立せず、見守られていると感じられること
生活のリズムが整い、心に余裕があること
年齢や立場に関わらず安心できる居場所がある
自分のやりたいことに挑戦できる
学び続けられる環境がある
仕事や活動にやりがいを感じられる
新しいことにチャレンジできる余白がある
自分の強みや個性を活かしている
年齢に関係なく成長を実感できる
好きなこと・得意なことに時間を使っている
将来に希望を持っている
地域に信頼関係がある
困ったときに助け合える人がいる
子どもや高齢者が安心して暮らせるまち
誰一人取り残されない社会
行政や制度が信頼できる
子育てや介護を社会で支えている
安心して住み続けられる地域であること
地域や社会の役に立っている実感
活動を通じた社会貢献
子どもを育て、次世代につなぐこと
地域活動やまちづくりに関われる
多様な人と協働できる
立場を超えて対話できる
「自分もまちの一員だ」と感じられること

生活環境・生活基盤

心身ともに健康であること
安心して暮らせる生活基盤があること
経済的不安が少ないこと
自分らしく、無理をせずに過ごせている状態
家族と穏やかに過ごせる日常
孤立せず、見守られていると感じられること
生活のリズムが整い、心に余裕があること
年齢や立場に関わらず安心できる居場所がある
地域に信頼関係がある
困ったときに助け合える人がいる
子どもや高齢者が安心して暮らせるまち
誰一人取り残されない社会
治安が良く、災害への備えがある
行政や制度が信頼できる
子育てや介護を社会で支えている
安心して住み続けられる地域であること
地域や社会の役に立っている実感
仕事や活動を通じた社会貢献
地域活動やまちづくりに関われる
多様な人と協働できる
立場を超えて対話できる
「自分もまちの一員だ」と感じられること

行財政運営

「行政や制度が信頼できる」
を中心に、すべての意見に基づき、町民のみなさんの
しあわせの土台づくりとしての福祉の増進が私たち
地方公共団体の使命である。

分野	分布件数	分野	分布件数
子育て・教育	25	健康・福祉	30
人づくり ・コミュニティ	31	生活環境 ・生活基盤	22
経済・産業	26	行財政運営	32

◇100 人会議における「しあわせ」意見の整理__まとめ／考察

1. これまでの整理の経過

以上で見てきたように、100 人会議ワークショップで得られた『しあわせ』意見を起点に、国が示す well-being 指標や第 2 次（現行）総合計画に掲げる政策 6 分野との関係性について整理を試みた。

well-being 指標への整理（分類）に関しては、今回のワークが「しあわせとは、だれのものか」【主体】と「しあわせとは、どんな状態か」【状態】を調査し、「しあわせのために、人々はどんな環境に身を置くか」【条件】という視点が問われなかったことにより、「事業創造」「初等・中等教育」「移動・交通」「デジタル生活」「自然災害」「自然の恵み」などの意見されにくいものであった。

第 2 次（現行）総合計画 に掲げる政策 6 分野との関係性について整理に関しては、各意見を 1 意見＝1 分野の分類に加え、1 意見＝多分野に分類して件数集計を行った結果、ほぼ全ての分野に横断的に関連する事実が浮かび上がったように捉えられる。

2. 分類の限界

これらの分析を通じて明らかになったのは、次の構造が見えてきたということだと考える。

①今回のワークが人々の考える well-being の状態がどのようなものであるのかという一端を確認することができたものの、国が実施する well-being 指標とは必ずしも尺度が一致しないということ

②政策 6 分野への分類は、人々のしあわせを“1 対 1”で対応づけようとするとう違和感や無理が生じることが確認されたこと、“1 対多”では多くの分野での重複が確認されたことから、その政策分野が本来『その政策を実施するための手段』を整理するための枠組みであって、人々が描く『しあわせ』は『状態・実感・経験』として分野横断的に存在するということ

3. 発想の転換：分野は「土台」

当初は、『しあわせを行政分野に分類できないか』という仮説のもとワークを設計したが、見出された結果から政策 6 分野が町民のしあわせを直接生み出すものではなく、それを下支えする基盤・環境整備として位置づけられる、つまり『各行政分野は、どのしあわせの土台を支えているのか』という発想が必要ではないかと考えられる。

4. しあわせの再整理（5 つの上位分類）

この考え方に立てば、参加者の描いたしあわせを俯瞰し、ある程度収斂させ、政策分野の上位に置く（上位概念とする）ことが妥当であると考えた。

例えば、次のようなものが考えられる。

- ① 安心して生きられるしあわせ（健康・安心・取り残されない）
- ② 自分で選び、成長できるしあわせ（学び・挑戦・希望）
- ③ 役に立ち、つながっているしあわせ（役割・貢献・居場所）
- ④ 暮らしを楽しめるしあわせ（余白・日常・家族・楽しさ）
- ⑤ 自然・地域とともにあるしあわせ（環境・循環・土地との関係）

5. 総合計画における表現の可能性

これら5つのしあわせを総合計画の上位概念にしようとする場合、どのような位置づけが適切か。この5つの性質を鑑みたとき、町民の皆さまにお伝えした広報あびら11月号の内容とミッション・ビジョン・バリュー（MVV）が想起される。

▶以下、広報あびら11月号「総合計画」ページからの抜粋

自治体（地方公共団体）の役割

安平町（地方公共団体）の存在を規定する「地方自治法」という法律の中に、地方公共団体の“役割”が書かれています。

【地方自治法 第1条の2 第1項】

地方公共団体は、住民の福祉の増進を図ることを基本として、地域における行政を自主的かつ総合的に実施する役割を広く担うものとする。

この役割を達成することが、安平町（地方公共団体）としての“目的”ということになります。

住民の福祉

ここでいう「福祉」とは、いったいどういう意味なのでしょう。地方自治法には意味が直接書かれていないため表現の仕方はさまざまですが、おおむね次のとおりと理解されています。

【福祉の意味】

心身ともに健康で、安心して、自分らしく暮らすことができるよう、社会全体で支えること。



児童福祉や、高齢者福祉など分野的、制度的な意味での「福祉」よりも意味が広いたま〜

Well-being（ウェルビーイング）

この言葉を聞いたことがあるでしょうか。WHO（世界保健機関）では、50年以上前からこの考え方に着目して取り組みが進められてきました。

SDGs（持続可能な開発目標）という国際連合が定めた世界共通の具体的な目標を実現するための中心的理念にも据えられています。また、日本政府としても、各種計画や指標づくりの中で重視されるべき考え方として取り入れられています。

【ウェルビーイングの意味】

身体的にも、精神的にも、社会的にもできるだけ良いとされる状態のこと。

まとめ 第3次総合計画で大切にしたい考え方

「福祉」と「ウェルビーイング」は、端的に表現すれば住民の皆様の「幸せ」につながりますが「幸せ」のかたちは人それぞれです。その多様な「幸せ」のかたちを追求できるような土台作りが「まちづくり」であり、その設計図が総合計画だと捉えています。

この総合計画の策定を義務付ける「町の憲法」といわれる「安平町まちづくり基本条例」には、次のような目的が明記されています。

【安平町まちづくり基本条例第1条】

この条例は、安平町におけるまちづくりの基本原則を明らかにするとともに、町民、議会、町及び職員の責務並びに町政運営の基本的事項を定めることにより、**町民自ら考え行動する町民自治の実現**を目的とします。

第3次総合計画は、多様な価値観を持つ町民の皆さんが求めるさまざまな形の「幸せ」を実現し、安平町で安心、安全に暮らせることを目指すための計画です。

▶ミッション・ビジョン・バリュー (MVV) について

ミッション=Mission 、ビジョン=Vision 、バリュー=Value

MVVとは、組織や取り組みの「軸」を整理する考え方です。
ミッションは「なぜ存在するのか」、
ビジョンは「どんな未来を目指すのか」、
バリューは「そのために何を大切に行動するのか」を示す。

社会課題が複雑化し、正解が一つではない時代においては、個々の施策や事業の前に、判断の拠り所となる共通の考え方が不可欠。
MVVを共有することで、関係者の判断や行動に一貫性が生まれ、目的から外れない取り組みが可能となる。

広報11月号で示した通り、『住民の福祉の増進を図ること』が地方公共団体の“ミッション”であることは揺るぎない。そして、次期総合計画ではwell-beingの考え方を大切にしたいという方向性や今回のワークを踏まえれば、まさに上記5つの区分が“ビジョン”に相当するということになり得る。また、まちづくり基本条例に規定される理念『町民自ら考え国道する町民自治の実現』に加えて、これまで当庁が大切にしてきた『C F C I』（子どもにやさしい=すべてのひとにやさしい）や『SDGs』（だれ一人取り残さない）が“バリュー”に適するものと考えられる。

整理すると次の通りとなる。

【ミッション = なぜ存在するか】※地方自治法より

町民の皆さまの福祉（しあわせ）の増進を図る。

【ビジョン＝どんな未来を目指すのか】※well-being

次の5つのしあわせを町民の皆さまが実現できることを目指す。

- ① 安心して生きられるしあわせ（健康・安心・取り残されない）
- ② 自分で選び、成長できるしあわせ（学び・挑戦・希望）
- ③ 役に立ち、つながっているしあわせ（役割・貢献・居場所）
- ④ 暮らしを楽しめるしあわせ（余白・日常・家族・楽しさ）
- ⑤ 自然・地域とともにあるしあわせ（環境・循環・土地の関係）

【バリュー＝なにを大切に行動するか】※まちづくり基本条例・CFCI・SDGs

・町民の皆さま一人ひとりがのしあわせを掴みにいくことを後押しする。

・“みんなにやさしいまちづくり”で、誰一人取り残さない。

▶100 人会議で参加者へ説明したスライドからの抜粋

まちづくり基本条例の理念

- ✓ 町民自ら考え行動する町民自治の実現
- ✓ 町は、まちづくりの主役である町民の主体性を支援し、共に歩む責務を負う

町民一人ひとりが
『しあわせをとりにいく』
ことを後押しするまちをつくるという考え方

大切にしているその他の理念

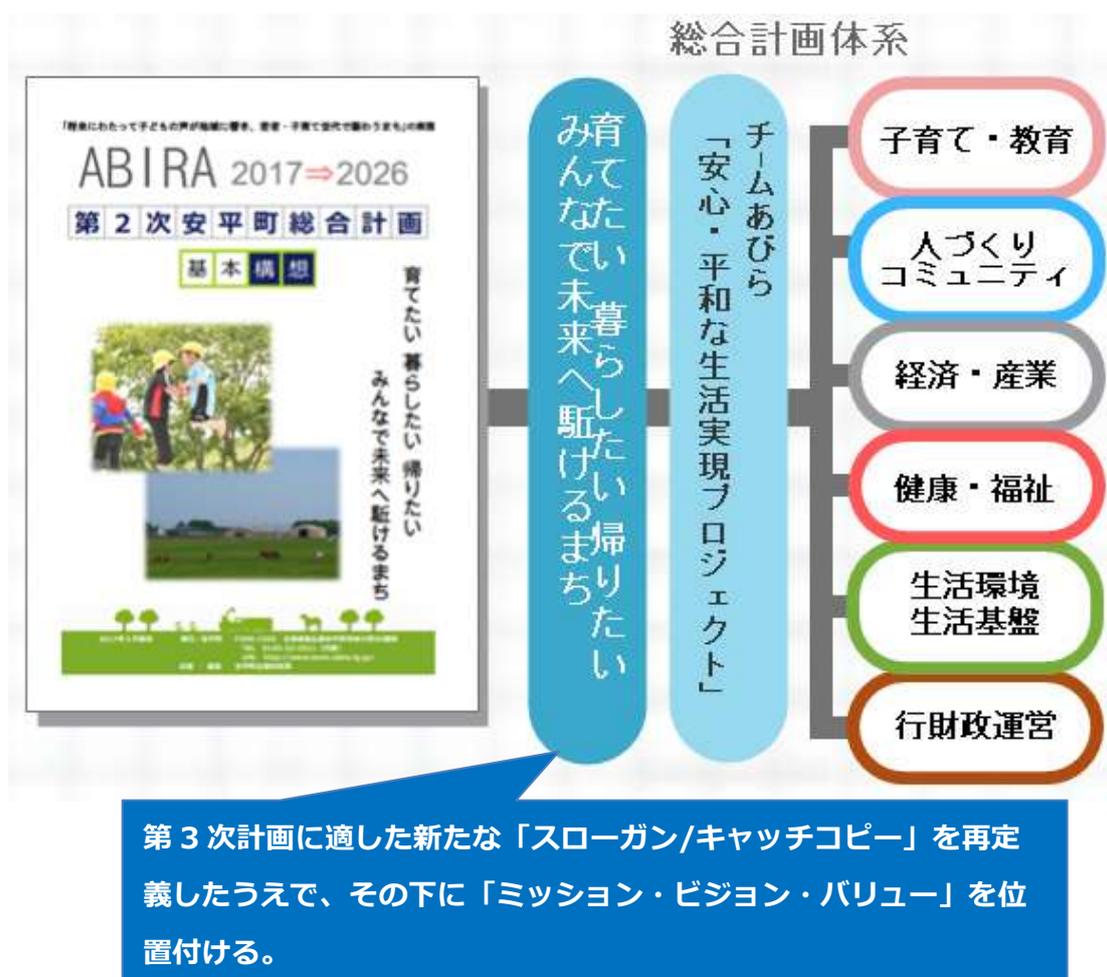
CFCI
子どもにやさしいまちづくり
子どもにやさしい＝すべての人にやさしい

SDGs
持続可能な開発目標
誰一人取り残さない

6. まとめ

これらミッション・ビジョン・バリューの下に、6分野の政策がぶら下がる構造とすることで、行政の縦割り構造を維持しつつ、町民の実感に沿った『横断的な価値構造』を示すことが可能になると考えられる。

【イメージ】



つまりこの構造により、職員にとっては自らの業務の意味を再確認する枠組みとなり、町民にとっては計画を『自分ごと』として理解しやすくする効果を期待したい。

さらに換言すれば、『行政の仕事は縦割りであるが、人々のしあわせは横断的である』という前提を、総合計画を通して町民の皆さまと共有する、総合計画を共通言語とすることが重要なのではないだろうかという仮説を得た。

5つのしあわせを軸に、政策分野がその育む土台として再定義する構造は、安平町らしい新たな総合計画の方向性を示す有効な整理であり、今後の計画策定における検討において重要な考え方の一つとして位置づけていきたい。

あびらの未来を、みんなで考える。

新しい総合計画づくりが始まっています

「総合計画」は、町の未来のかたちを決める大切な計画です。

現在、平成29年度から始まった第2次総合計画に基づき、令和8年度までの10年間で、さまざまな取り組みが進められています。

この計画は、教育や子育て、人づくりやコミュニティづくり、経済や産業、健康や福祉、生活環境や生活基盤など、安平町に関わるあらゆる分野の「方向性」を示す「まちづくりの設計図」であり、将来の「ありたい姿」を出発点として定め、そこに向かうための道筋が段階的に描かれています。

本ページでは、計画に関するお知らせや令和9年度からスタートする「第3次総合計画」の策定へ向けた町の取り組みなどについてお知らせします。

前回のおさらい

前号では、私たち安平町（地方自治体）の役割と、その役割を果たすための目的としての「住民の福祉」やこれと同じように大切な考え方である「well-being（ウェルビーイング）」についてお伝えしました。

「福祉」と「ウェルビーイング」は、住民の皆様の『幸せ』ということができますが、そのかたちはさまざま。その多様なかたちの幸せを追求できるようにするための土台作りが「まちづくり」であり、その設計図が総合計画です。

広報あびら8月号では、第2次総合計画の構造やその大切さについて取り上げました。今回は、そこからもう少し踏み込んで、そもそも総合計画とはどういうものなのか、少し視点を変えて掘り下げていきます。



「総合計画」とはどのようなものなのか

下記は広報あびら8月号でご紹介した図です。

【第2次安平町総合計画の構成と期間】

●基本構想（10年間）

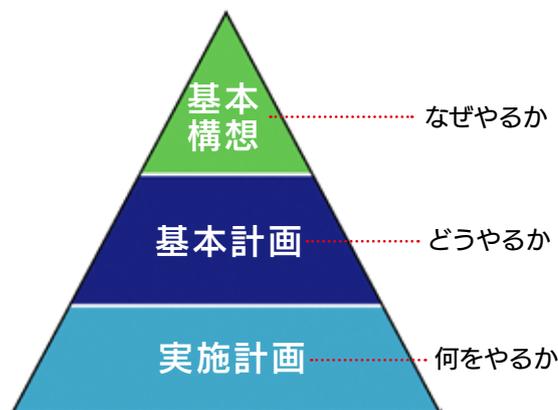
町の将来像や政策、施策の大枠を示す長期的な指針。

●基本計画（前期2年間、中期4年間、後期4年間）

基本構想を実現するための中期的な指針。政策を分野別にまとめ、現状と課題から事業の方向性などを示し、達成度を測るために成果指標を設定している。

●実施計画（3年スパンで、毎年度見直し）

基本計画に基づいた個別具体的な事業を立案。



基本構想 = なぜやるか

- ・子どもたちの元気な声が地域に響くと、高齢者も元気になる
- ・子育てを応援してくれる先輩世代が、いつまでも元気に活躍してもらいたい
- ・『子育て・教育』という安平町の強みを生かして全ての世代の方がいきいきと過ごす
そんな姿をイメージして『育てたい 暮らしたい 帰りたい みんなで未来へ駆けるまち』というスローガンを掲げ、まちづくりを進めています。

基本計画 = どうやるか

安平町は、次の6つの分野に分けてまちづくりを進めています。

- | | | |
|----------|----------------|-----------|
| I 子育て・教育 | II 人づくり・コミュニティ | III 経済・産業 |
| IV 健康・福祉 | V 生活環境・生活基盤 | VI 行財政運営 |

最も優れた強みである『子育て・教育』分野を優先するべき分野として育て、それにより安平町への『移住・定住』や街中での『回遊・交流』の流れへ結びつけていくことを狙っています。

実施計画 = 何をやるか

住民の皆様に直接影響する、役場の各種取り組み（事業）のことです。

- 例) ・地域の子どもたちが元気で楽しく子ども園や学校で過ごしてもらうための事業
- ・芸術文化に触れ、活発に地域活動ができるようにするための事業
 - ・農林業や商業を元気にするための事業
 - ・地域の医療を支えたり、皆様に健康になってもらうための事業
 - ・道路や水道を維持管理し、安心安全に暮らすための事業
 - ・上記の事業などを行う役場の機能を維持し、向上させるための事業



学校や道の駅の建設、保育料の軽減、プレミアム付き商品券を発行するなどの取り組みが住民の皆様にとって最も身近なことになるのではないのでしょうか。

「何をやるか」を考えるために、町として「どうやるのか」「なぜやるのか」をしっかりと明確に打ち立て、住民の皆様の理解を得ていく必要があります。

総合計画は、このような意味合いから『まちづくりの設計図』と表現しています。

【総合計画に関するご意見】

随時、受け付けています。インターネットからも受け付けていますので、ぜひご活用ください。右記二次元バーコードからもアクセスできます。

インターネット <https://www.harp.lg.jp/kyFPjdtc>

郵送先 〒059-1595 安平町早来大町95番地 安平町役場政策推進課 宛

FAX送付先 FAX 2026



総合計画に関する問合せ 政策推進課政策推進グループ ☎ 2751

あびらの未来を、みんなで考える。

新しい総合計画づくりが始まっています

「総合計画」は、町の未来のかたちを決める大切な計画です。

現在、平成29年度から始まった第2次総合計画に基づき、令和8年度までの10年間で、さまざまな取り組みが進められています。

この計画は、教育や子育て、人づくりやコミュニティづくり、経済や産業、健康や福祉、生活環境や生活基盤など、安平町に関わるあらゆる分野の「方向性」を示す「まちづくりの設計図」であり、将来の「ありたい姿」を出発点として定め、そこに向かうための道筋が段階的に描かれています。

本ページでは、計画に関するお知らせや令和9年度からスタートする「第3次総合計画」の策定へ向けた町の取り組みなどについてお知らせします。

前回のおさらい

前々号（広報あびら12月号）では、「総合計画とはどういうものか」について、8月号から深掘りしてお伝えしました。総合計画は「なぜやるか」を定める基本構想」「どうやるか」を定める基本計画」「何をやるか」を定める実施計画」という三層構造となっています。住民の皆さんにとっては『何をやるか』が最も重要ですが、その理由などをしっかりと見定めて住民の皆さんと共有していくことも大切だと考えています。

安平町ではここ数年、転入される（入ってくる）方の数が転出される（出ていく）方の数を上回る状況が続いています。こうした成果に結びついている背景にある「第2次総合計画」の特長や人口の状況などについてお伝えします。

人口の推移



※2025年以降の社人研推計は、2020年国勢調査結果を踏まえた推計ではなく、社人研の平成30年3月公表値を使用（2015年国勢調査結果を反映） 出典：国勢調査、2025年以降は社人研推計

このグラフは、これまでの人口と公的機関が算出した将来の推計値を表したものです。1960年付近をピークに年々人口減少が進み、2025年の推計値以降もその傾向が続くと予想されています。

そのような状況の中でも、令和4年から令和7年にかけて4年連続で転入者が転出者を上回る人口の「社会増」が続いています。さらに令和7年は、お生まれになる方とお亡くなりになる方の数を差し引いても、令和6年末から比較して人口が20名増加し、7,234名（令和7年12月末時点。速報値）となりました。

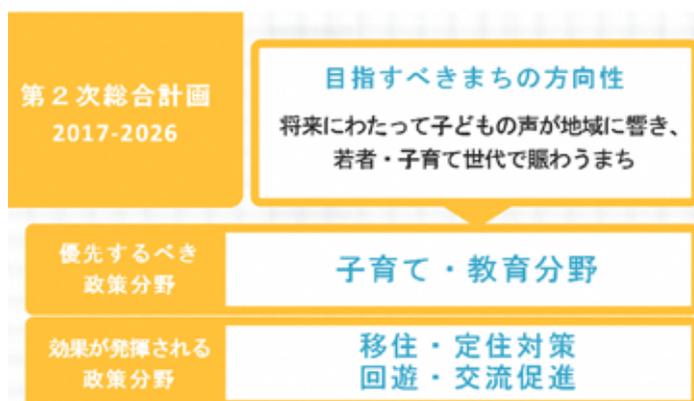
【社会増】 令和4年：15名、令和5年：91名、令和6年：21名、令和7年：119名

※その年の1月1日から12月31日までの数を累計

【人口増】 令和6年末：7,214名 → 令和7年末：7,234名

第2次総合計画の特長

先ほどのグラフの通り、安平町の人口は少子高齢化で将来にわたって減少していくことが予想されますが、この傾向は第2次総合計画ができた当時と同じでした。そうした状況の中で直面する大きな課題の一つとして、あらゆる分野での「担い手・なり手不足」が挙げられています。



この課題を解決するために、当時から強みとして挙げられていた「子育て・教育」分野で注目を集め、安平町を知り、実際に来て、最終的に住んでいただくことで、活力ある子育て世代の皆さんを中心に、まちづくりの新たな「担い手・なり手」としてこのまちを支えていただこうと計画されています。

こうした昨今の状況の背景には、第2次総合計画の特長が少なからず影響しているものと考えます。

今後の予定

本年度に入り第3次総合計画づくりに向けて、まちづくりアンケートなどを通じたさまざまな場面で町民の皆さんの考えをお聞かせいただいています。

今後は、その結果についてもご報告していくことを予定しています。

また、下記の方法でいつでもご意見を募集していますので、お気軽にご利用ください。

【総合計画に関するご意見】

随時、受け付けています。インターネットからも受け付けていますので、ぜひご活用ください。右記二次元コードからもアクセスできます。

インターネット受付先：<https://www.harp.lg.jp/kyFPjdtc>

郵送先：〒059-1595 安平町早来大町95番地 安平町役場政策推進課 宛

FAX送付先：FAX 2026



総合計画に関する問合せ 政策推進課政策推進グループ ☎ 2751

地方版総合戦略の検証・見直し

「地方版総合戦略」とは、当町で言う「安平町デジタル田園都市国家構想総合戦略」を指すもの。

国は、令和7年12月23日の閣議決定により、

「地方創生に関する総合戦略

～これまでの地方創生の取組のフォローアップと推進戦略～

を定めたことから、当町もこれを踏まえて進めていく必要がある。

地方創生に関する総合戦略～これまでの地方創生の取組のフォローアップと推進戦略～（概要）
(令和7年12月23日閣議決定)

1. 「地方創生に関する総合戦略」について

○「まち・ひと・しごと創生法」において、同法第8条第1項に規定する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定するに当たっては、検証に資するよう総合戦略の実施状況に関する**客観的な指標**を設定することとされている。

○「地方創生に関する総合戦略」では、**これまでの地方創生の取組をフォローアップ**するとともに、**地方創生施策の推進戦略を取りまとめる**に当たり、各府省庁における地方創生のための**具体的な事業を整理**するとともに、各施策の進捗管理・検証を行うために**工程表を作成**するとともに**KPIを設定**。これにより、総合戦略全体の実効性を高める。

政策目標：①**強い経済**、②**豊かな生活環境**、③**選ばれる地方**

<p>政策目標① 強い経済</p> <p><KPI> 東京圏以外における就業者一人当たり年間付加価値労働生産性の伸び率：東京圏以上（2029年）</p> <p style="text-align: center;">↑</p> <p><地域における高付加価値型産業創出> ・多様な地域資源をいかしたインバウンドの促進 ・ワット・ピット連携の推進 ・産学官連携によるオープンイノベーションの推進 等</p> <p><地域の人材力強化> ・デジタル人材の育成 ・リスキリング支援 等</p>	<p>政策目標② 豊かな生活環境</p> <p><KPI> 生活インフラの質の維持や暮らしへの安心感により、地域での生活がこれから良くなっていくと思う人の割合：向上（2029年）</p> <p style="text-align: center;">↑</p> <p><持続可能な生活インフラの実現> ・「交通空白」の解消等に向けた地域交通のリ・デザインの全面展開 ・新たなモビリティサービスの社会実装の実現 ・地域暮らしサービス拠点の形成 等</p> <p><地域の暮らしの満足感向上> ・地域医療提供体制の維持・確保 ・日本版CCRCの展開 ・スマートシティの推進 等</p>	<p>政策目標③ 選ばれる地方</p> <p><KPI> 東京圏以外で暮らすことを希望し実現できてきている、若者や女性の人数及び割合：向上（2029年）</p> <p style="text-align: center;">↑</p> <p><魅力が感じられる地方の実現> ・地域の働き方・職場改革の推進 ・女性の起業支援 ・地方大学・地域産業創生交付金 ・ふるさと住民登録制度 ・地方創生移住支援事業 等</p>
--	---	--

地方創生に関する総合戦略
～これまでの地方創生の取組のフォローアップと推進戦略～の概要

○「まち・ひと・しごと創生法」で、まち・ひと・しごと創生に関する**目標**及び施策に関する**基本的方向**並びに政府が講ずべきまち・ひと・しごと創生に関する**施策を総合的かつ計画的に実施するために必要な事項**を定める「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定（閣議決定）することとされている。

また、同総合戦略の案を作成するに当たっては、検証に資するよう総合戦略の実施状況に関する客観的な指標を設定することとされている。

○2014年以降、総合戦略を累次策定しており、現行の「デジタル田園都市国家構想総合戦略」は2023年度を初年度とする5か年の総合戦略として策定された。

※策定後も基本的に毎年末に改訂

○今般、「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を変更し、「**地方創生に関する総合戦略～これまでの地方創生の取組のフォローアップと推進戦略～**」（以下「本総合戦略」という。）を策定。（期間は2025年度～2029年度。）

- ・各府省庁における地方創生のための具体的な事業を整理。
- ・各施策の進捗管理・検証を行うために工程表の作成・KPIの設定をするとともに、目標と各施策との因果関係（ロジックモデル）を設定。

○「**強い経済**」の実現に力点を置いた全体戦略としての「**地域未来戦略**」を来年夏を目処に取りまとめる。

【議事（3）安平町デジタル田園都市国家構想総合戦略について】

地方創生に関する総合戦略の勘案について

【閣副第917号・府地創第416号】「地方創生に関する総合戦略～これまでの地方創生の取組のフォローアップと推進戦略～

を勘案した地方版総合戦略の策定・改訂について」(令和7年12月23日付け通知)

本日、2025年度を初年度とする5か年の新たな「地方創生に関する総合戦略～これまでの地方創生の取組のフォローアップと推進戦略～」(以下「本総合戦略」という。)が閣議決定されました。

本総合戦略は、これまでの地方創生の取組をフォローアップするとともに、地方創生施策の推進戦略を取りまとめたものです。

国としては、これまでの地方創生で進めてきた取組に加えて、地方が持つ伸び代をいかすことで、国民の暮らしと安全を守り、地方に活力を取り戻すことを目指し、**「強い経済」の実現に力点を置いた形で取りまとめる全体戦略である「地域未来戦略」を来年夏を目途に取りまとめることとしています。**

地方においては、まち・ひと・しごと創生法(平成26年法律第136号)第9条及び第10条に基づき、国の総合戦略を勘案し、都道府県まち・ひと・しごと創生総合戦略及び市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略(以下「地方版総合戦略」という。)を策定するよう努めなければならないこととされています。

つきましては、各地方公共団体において、それぞれの地域の実情に応じて、地方版総合戦略についての検討・策定・改訂に努めていただく等、対応をお願いいたします。その際、別途提供する「地方版総合戦略の策定・効果検証のための手引き(令和7年12月版)」に留意すべき事項を記載していますので、参考にさせていただきようお願いいたします。

また、貴都道府県内の市区町村長並びに一部事務組合の管理者及び広域連合の長に対してもこの旨周知願います。

なお、本通知は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第245条の4(技術的な助言)に基づくものです。

【今後の方針】

- ・多くの自治体では、本年度末で地方版総合戦略の計画期間満了を迎える。
- ・一方で、当町は岸田内閣時の「デジタル田園都市国家構想」が打ち出された際に総合戦略を改定している。
- ・よって、計画期間は令和9年度末までとなっている。
- ・上記内閣府の通知等を踏まえ、また、現在当町では第3次総合計画の策定を進めていることに鑑みて、「第3次総合計画の内容を踏まえた新たな総合戦略」を策定して参りたいと考えている。

申請者	北海道安平町	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	165,943千円 (59,836千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	地方への人の流れ分野
目的（効果）	デジタル人材の育成の考えを踏まえながら、子育て中の女性の就労が可能となる働き方の導入等により、仕事と子育てを両立し、安心して出産し子育てできる就労環境を提供すること。また、若年層が働きたいと思える就労場所の確保など「子育て・教育」環境の魅力化と新しい働き方を提供できる本当の意味での移住定住につなげる。こうした取組みを通じて、デジタル技術を活用した便利で快適に暮らせるまちの実現を目指すもの。		
事業概要・ 主な経費	<p>女性や若年層の活躍をさらに推し進めるため、子育てと仕事を両立することができ安心して出産し子育てできる就労環境の提供、若年層が働きたいと思える就労場所の確保、これら取組みを安平町の新たなブランドとして定着させるためのブランディングと町内外へのプロモーションを推進していくために必要な取組みを、「あびらスマートワーク推進プロジェクト」として展開し、推進していきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●スマートワーク産業育成事業及び企業誘致推進事業 ・リスキリング事業（短期プログラム）（委託費）4,230千円 ・リスキリング事業（長期プログラム）（委託費）9,876千円 ・サテライトオフィス誘致・事業誘致推進事業（委託費）10,829千円 ●ブランディング推進事業及びシティプロモーション事業 ・地方創生推進シティプロモーション事業（委託費）12,984千円 ・安平町ブランディング事業（委託費）8,195千円 		
※経費内訳はR7年度事業費	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>リスキリングとは</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>労働者視点</p> <p>デジタル化により新しい職業や仕事の進め方が大幅に変わる職につくためのスキル習得</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>企業の視点</p> <p>デジタル技術を使いながら価値創造できるよう、多くの従業員に能力やスキルを再開発する</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">⇔</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>OJT(On-the-Job Training)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社内の「いまある」部署の「いまある」仕事を通じて、やり方を覚え、スキルを獲得してもらう教育 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>リスキリング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社内に「いまない」仕事、「いま、できる人がいない」仕事のための新たなスキルを獲得すること </div> <p style="font-size: small;">ツギノジタイ「リスキリングとは DX時代の人材育成になぜ必要？ OJTとの違いも」より引用 https://smbiz.asahi.com/article/13978145</p> </div> <div style="width: 45%; text-align: center;">  <p>あびら町エリアは</p> <p>あびらチャンネル ABIRA CHANNEL @ ABIRA</p> </div> </div>		
KPI	<ul style="list-style-type: none"> ①地域へのUIターン数（+30人） ②デジタル人材育成・確保数（+45人） ③企業進出相談件数（+45件） ④デジタル技術の町内事業者等への還元件数 79（+5件） 	関連URL	<p>（交付金の具体的使途・実施体制）</p> <p>https://www.town.abira.lg.jp/gyosei/kaigiroku/mirai/1753</p> <p>（効果検証）</p> <p>https://www.town.abira.lg.jp/gyosei/kaigiroku/mirai/1904</p>
※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値			

事業概要【全世代をつなぐ、生きがい支援 ～「こどもまんなか」でみんなにやさしいまちプロジェクト～】

申請者	北海道安平町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	34,865千円 (7,251千円)
事業分野	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業	事業分野 (大項目)	選ばれる地方分野
目的・効果	<p>「地方創生2.0」に掲げる女性や若者にも選ばれる地域となるため、子どもから大人まですべての住民が「自ら考え、行動を起こす」、「こどもまんなか」な生涯活躍のまちづくりを実現する。</p> <p>・そのために、デジタルを活用した子どもの意見聴取等を進める中で、子どもからお年寄りまですべての世代の方が「つながる」ための支援を事業面、施設面双方から支援する。</p>						
事業概要・ 主な経費 <small>※経費内訳はR8年度事業費</small>	<p>【事業概要】 「意見が言えない、聞いてもらえない」と感じている方が1割程度いる結果を踏まえ、「いつでもどこでも意見ができる・必ず届く」仕組みをデジタルで解決したい。また、町内全てのNPO法人が「世代間のつながり」と「もともと住民の方とのつながり」を求めていることに鑑み、つながりを求めている方の発掘及びつながりづくりの伴走支援しつつ、地域のだれもが利用できる学校（早来学園内の地域開放スペース）を活用し、より気軽に来て相談してもらえするためのコンシェルジュを配置し、不慣れな高齢者や子ども達の希望に合った施設利用の提案や伴走する。</p>					<p style="text-align: center;">全世代をつなぐ、生きがい支援 こどもまんなかでみんなにやさしいまちプロジェクト</p> <p style="text-align: center;">「こどもにやさしい」から「みんなにやさしいまち」へ 世代を超えた新たなつながりで、さらなる社会人口の増加を目指す。</p> <p style="text-align: center;">▼教育課程支援（あびら探求タイム） ▼交流拠点づくりや多世代による交流</p>  <p style="text-align: center;">こどもまんなかによる環境整備</p>	
	<p>【ソフト事業】</p> <p>(1) 多世代のつながり創出に関する事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育活動プラットフォーム構築事業 2,900千円 ・教育課程支援事業（あびら探求タイム）300千円 ・コンシェルジュ業務委託事業 1,790千円 <p>(2) こどもまんなか（子どもの意見聴取・尊重）に関する事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見聴取プラットフォームづくり事業 2,261千円 						
主なKPI <small>※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値</small>	<p>①社会増減の均衡実現(±0人) ②70歳以上の転出者数抑制(±0人)</p> <p>③子育て世代の転入世帯数 (+24世帯)</p> <p>④地域開放スペース利用団体件数 (+300件)</p> <p>⑤共遊事業により生まれた住民活動件数 (+9件) 80</p> <p>⑥子どもの意見聴取機会の実施件数 (+9件)</p>					URL <small>※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL</small>	<p>(交付金の具体的使途・実施体制)</p> <p>https://www.town.abira.lg.jp/gyosei/kakushu-keikaku/1362</p> <p>(効果検証)</p> <p>https://www.town.abira.lg.jp/gyosei/kaigiroku/mirai/1904</p>

事業概要：観光安全確保及び地場産業『稼ぐ力』向上プロジェクト

申請者	北海道安平町					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	17,254千円 (3,810千円)
事業分野	ソフト 事業	✓	拠点整 備事業		インフ 整備事業	事業分野（大項目）	地場産業支援関連事業分野
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・特産品開発・改良に関するコンテストを実施して地場産業の活性化を推進するため、付加価値の創出と地域の稼ぐ力を育む仕組みをつくる。 ・その仕組みにより移住検討者や移住者の不安要素である雇用を確保し、子育て世代に選ばれる産業基盤を築くことで移住定住の促進も狙う。 ・観光客増加に伴うオーバーツーリズム対策を講じ、住民と来訪者双方が安心して住み続けられる、訪れることができる環境を整備する。 						
事業概要・ 主な経費 <small>※経費内訳はR8年度事業費</small>	<p>【事業概要】 特産品開発や高付加価値化等を推進し、稼ぐ力を育てていただくための準備期間として位置づけ、安平町らしい、安平町ならではのブランドを構築する仕組みの立ち上げを進めると並行して、当町の観光の拠点施設である道の駅における生産者協議会による直売所運営を支援するための集荷配達支援事業を開始し、遠方の営農者の出荷ロス削減を狙う。また、地域住民と観光客双方の安全を守り、最大の集客が見込まれる菜の花シーズンにおける交通安全対策や混雑しない導線づくりを進め、観光回遊性と稼ぐ力の効果的な発現を推進する。</p> <p>【ソフト事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特産品グランプリ審査会謝礼及び表彰エンブレムデザイン謝礼（報償費） 397千円 ・農産物直売所運営に係る集荷支援事業補助金（補助金） 113千円 ・公式パンフレット制作（委託料） 1,771千円 ・ナッジ活用交通安全等対策費（補助金、謝礼） 882千円 ・菜の花もぐもぐスタンプラリー実施（委託料） 647千円 					 <p>観光客による私有地への立ち入り</p>	 <p>行動科学「ナッジ」の事例</p>
主なKPI <small>※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値</small>	<ul style="list-style-type: none"> ①観光客数（+54千人） ②道の駅来訪客数（+19千人） ③農商工連携による6次産業化関連企業・団体数（+81件） ④地域資源を活用した特産品の商品化数（+6件） 					URL <small>※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL</small>	調整中

令和7年度 第3回 物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金実施計画

No.	推奨事業メニュー	交付対象事業の名称	事業の概要 ①目的・効果 ②交付金を充当する経費内容 ③積算根拠(対象数、単価等) ④事業の対象(交付対象者、対象施設等)	事業始期	事業終期
1	①食料品の物価高騰に対する特別加算	R7年度食料品物価高騰に伴う高齢者世帯等臨時特別支援給金事業	①食料品価格の高騰が続く中で、その影響を受けやすい高齢者世帯等へ限定して支援を行うことで、緊急かつダイレクトに食生活の維持を図る。 ②高齢者世帯等への給付金及び事務費 ③対象世帯2,130世帯×20,000円=42,600,000円 事務費 1,637千円 事務費の内容 [需用費(事務用品等)、役務費(郵送料)として支出] ④高齢者や障がい者が属する世帯及びひとり親世帯	R8.1	R8.3
2	③消費下支え等を通じた生活者支援	R7年度安平町消費拡大地域活性化事業(物価高騰等へ対応する臨時プレミアム付商品券事業)	①エネルギー・食料品価格等の物価高騰の影響を受け続けている生活者及び商店を支援するため、商工会が実施するプレミアム商品券の発行を支援する。 ②③プレミアム率20%(2,000円)×12,000セット=24,000千円 事務費2,251千円 合計26,251千円 【財源内訳】 *推奨メニュー分 21,000千円 *その他(一般財源)5,251千円 【事務費内訳】 *商品券印刷費 1,611千円 *商品券事務費 640千円(広告費等) ④安平町民	R7.6	R8.2
3	⑧地域公共交通・物流や地域観光業等に対する支援	R7年度町内ハイヤー事業者継続支援臨時対策事業	①②燃料高騰の影響を受けるハイヤー事業者の維持継続を目的として、町内唯一の運送事業者に係る費用を補助する。 ③町内移動の運賃の1/2を補助、近隣医療機関への運賃の1/2を月1回上限で補助 1か月あたり補助見込額504千円×12か月≒6,048千円(端数調整有) ④ハイヤー事業者 【財源内訳】 *推奨メニュー分 5,182千円 *その他(一般財源)864千円	R7.4	R8.3
4	①食料品の物価高騰に対する特別加算	R7年度学校給食保護者負担軽減臨時対策事業	①②食材価格高騰分を保護者負担増(給食費値上)で賅うのではなく、本交付金を充当し保護者(教職員除く)負担を軽減する。 ③R7給食費高騰見込6,403,250円(軽減前総額の約16.58%に相当)≒6,403千円(保護者負担軽減分) 対象施設数4校分・2園に係る給食費軽減見込額は次のとおり *子ども園:2、軽減見込額1,479,996円 *小学校:2、軽減見込額3,212,407円 *中学校:2、軽減見込額1,710,847円 計:6,403,220円 ④児童生徒保護者	R7.4	R8.3
5	⑦医療・介護・保育施設、学校施設、公衆浴場等に対する物価高騰対策支援	R7年度公衆浴場エネルギー高騰臨時対策事業	①②エネルギー価格の高騰に伴う地域唯一の公衆浴場運営に係るA重油の単価上昇に対し、運営事業者への負担軽減の支援を行う。 ③R7当初A重油相当分委託料単価12円/L×使用数量128,000L=1,536,000円 ④施設運営受託事業者	R7.12	R8.3
6	②物価高騰に伴う低所得者世帯・高齢者世帯支援	R7年度エネルギー高騰に伴う高齢者等低所得者世帯臨時特別支援給付金事業	①エネルギー価格の高騰が続く中で、その影響を受けやすい低所得者世帯へ限定して支援を行うことで、緊急かつダイレクトに低所得の方々の生活の維持を図る。 ②低所得者世帯への給付金及び事務費 ③対象世帯952世帯×15,000円=14,280,000円 事務費 427千円 事務費の内容 [需用費(事務用品等)、役務費(郵送料)として支出] ④住民税非課税の高齢者や障がい者が属する世帯及びひとり親世帯	R8.1	R8.3
7	①食料品の物価高騰に対する特別加算	R7年度食料品物価高騰に伴う臨時プレミアム付商品券事業	①食料品価格等の物価高騰の影響を受け続けている生活者及び商店を支援するため、商工会が実施するプレミアム商品券の発行を支援する。 ②③プレミアム率50%(5,000円)×5,000セット=25,000千円 事務費分2,101千円 補助合計27,101千円 事務費の内容 [需用費(事務用品等)、役務費(印刷製本等)として支出] ④安平町民	R8.1	R8.3
8	⑥中小企業・小規模事業者の賃上げ環境整備	R7年度道の駅事業継続支援臨時対策事業	①②エネルギー価格の高騰に伴う燃料・電気料金の増大に対し、町内唯一の道の駅指定管理事業者への負担軽減の支援を行う。 ③(R7電気料金推計9,037,628円-当初基準管理費(電気料金)7,574,000円)×既定割合0.6≒879,000円 灯油代の高騰分 @6円×3,855L≒24,000円 計 903千円 ④指定管理施設受託事業者	R8.3	R8.3